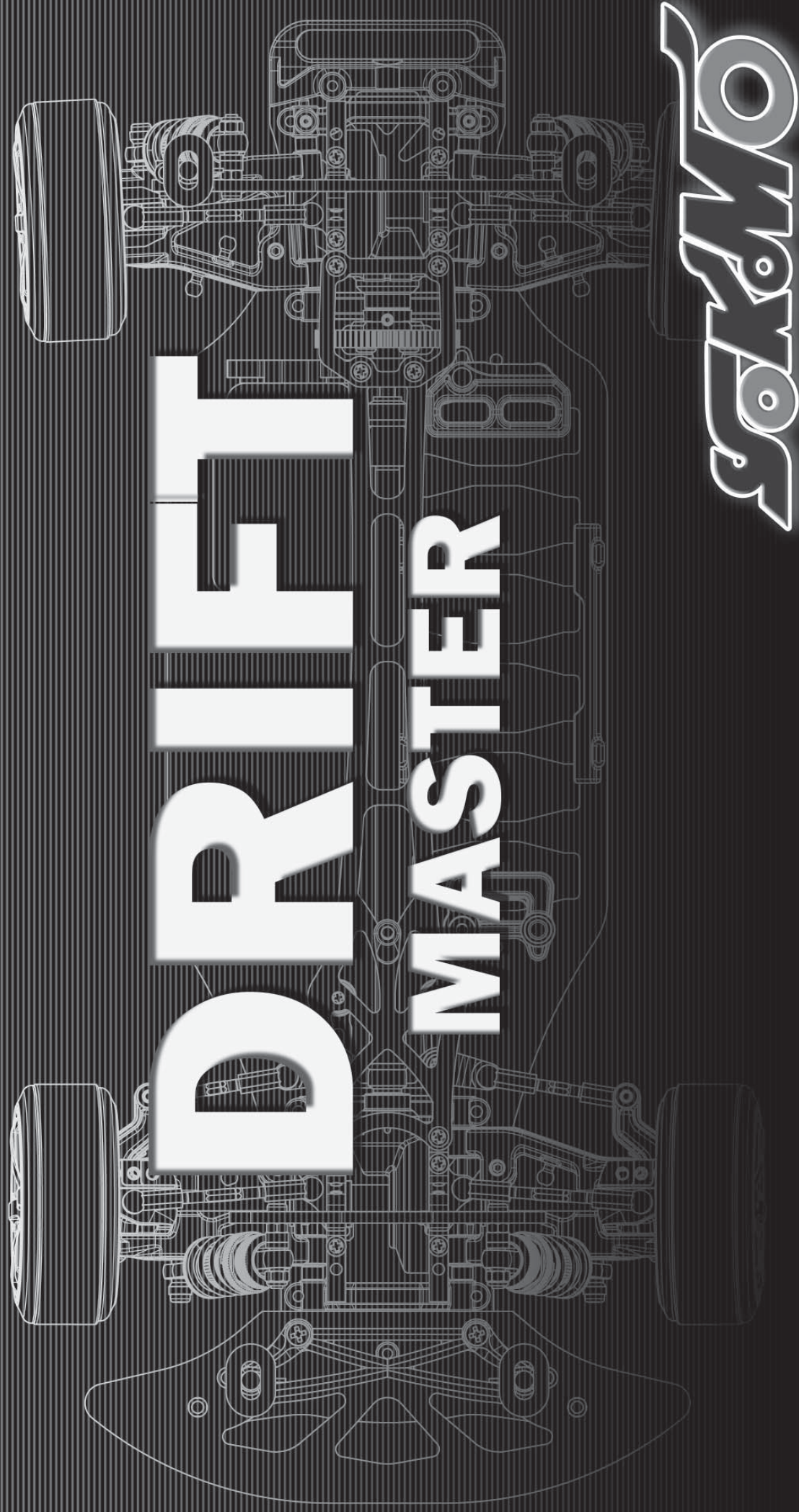


10-World Champion YOKOMO



DRIIFT MASTER KIT

2006. 07. 28

この度はヨコモ製R/Cカーキットをお買い求め頂き、誠に有り難うございます。このキットは、ワールドチャンピオン メーカーであるヨコモの高性能・競技用R/Cカーです。本説明書に従った正しい組立・安全な走行をして頂ければ、誰でも手軽に楽しむことが出来ます。

R/C カーを安全に楽しんで頂くための 注意事項

お子様（中学生以下）が 組立・走行する際は、必ず保護者の方が付き添い 安全を確認して下さい。

■ 組立の注意

- 幼児のいる場所では組み立てないで下さい。小さな部品を飲み込む等、非常に危険です。
- 組立の前に必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などがあった場合は、ヨコモ アフターサービス部までお問い合わせ下さい。
- 組立の前に説明書を最後まで読み、全体の流れをつかむと効率的な組立が出来ます。
- 組み立てる際は、様々な工具が必要になります。安全の為に必ず作業内容に合った工具を使用して下さい。又、カッターナイフ等を使用する際は危険を伴いますので、注意して下さい。
- 部品には様々な素材を使用しています。切削加工された金属パーツ等はエッジが鋭く、慎重な組立が必要となります。ケガをしないように注意して下さい。
- プラスティックパーツなどを切断する際は、切断した部品が飛び危険があるので注意して下さい。
- 回転部や駆動部は出来るだけスムーズに動作するように組み立てて下さい。
- 配線やコード類はきれいにまとめ下さい。回転部分や走行路面にコードが接触すると危険です。又、配線は確実に接続されていないとショートなどの恐れや、性能を十分に発揮出来ない場合があります。
- 必要以上の分解、改造をすると、安全性が低下したり走行性能が十分に発揮出来なくなる場合があります。
- 塗装は、周囲に火気の無いことを確認し、換気の良い場所で行って下さい。

■ 走行の注意

- ヨコモ製R/Cカーは競技用の為、時速40kmを越える速いスピードが出るモデルもあります。ルールを守って安全な場所や、R/Cカー用サーキットで走らせて下さい。
- 公道等、周囲の人の迷惑になるような場所では絶対に走らせないで下さい。
- R/Cカーは電波を利用する為、何らかのトラブルで最悪の場合は暴走する事があります。狭い場所や室内は避け、出来るだけ広い、障害物のない場所で走らせて下さい。
- 周囲にR/Cカーを走らせている人がいる場合は、電波が重ならないように、周波数を確認し合って、安全を確かめて下さい。
- R/Cカーは水を嫌います。雨の日や、水たまりのある場所では走らせると、R/Cメカが壊れたり、暴走する危険があります。
- R/Cカーの 駆動部分、ギヤやベルト、タイヤなどは高回転で回ります。バッテリーを接続した後は危険ですので、回転部分に手を触れないで下さい。
- 走行後のR/Cカーは各部が高温になる事があります。危険ですので冷却期間をおいてから、メンテナンスなどをして下さい

■ 走らせる手順

- ① タイヤが空転するように、台の上にR/Cカーを置きます。
- ② スピードコントローラのスイッチがOFFになっている事を確認してから、モーターとバッテリーを接続します。
- ③ 送信機のアンテナを伸ばし、スイッチをONにします。（送信機の電圧が下がっていると危険です。常に電圧の高い状態で使用して下さい。）
- ④ 受信機のスイッチをONにします。

■ 走行終了手順

- ① スピードコントローラのスイッチをOFFにします。
- ② バッテリーの接続を外します。
- ③ 送信機のスイッチをOFFにし、アンテナを縮めます。

■ バッテリーの取り扱い

- バッテリーに付属の説明書に基づき使用して下さい。（バッテリーに付属の説明書に基づき使用して下さい。）
 - バッテリーを充電する際は、周囲に燃えやすい物のない安全な場所で行って下さい。又、高温な場所での充電も避けて下さい。
 - バッテリーの充電中は充電状況を常に確認して下さい。充電器の誤動作などで過充電すると、最悪の場合は発火する危険性があります。バッテリー温度が50度を越えたら充電を中止して下さい。
 - 走行後のバッテリーは高い温度になります。連続使用するとバッテリーを傷める事になりますので、冷却期間を置いてから充電して下さい。又、走行後のバッテリーはコンディション放電する事によって、性能を持続させる事が出来ます。
 - 不要になったバッテリーは一般のゴミと一緒に捨てずに、お手数でも電池専用の回収箱に捨てて下さい。
- ### ■ モーターの取り扱い
- モーターに付属の説明書に基づき使用して下さい。（モーターに付属の説明書に基づき使用して下さい。）
 - 7.2Vのバッテリーでモーターのから回しをすると危険です。モーター内部を破損し部品が飛び出す事も考えられますので、もしモーターのブレークインをする時は、モーターをしっかり固定し3～5V程度でから回して下さい。
 - モーターは定期的なメンテナンスが必要です。劣化するとスピードが出なくなったり、走行時間が短くなります。定期的にクリーニングしたり、ブラシが減ってきたら交換する等のメンテナンスをして下さい。
 - モーターの性能に合ったギヤ比を選択して下さい。ギヤ比が最適でないとモーターの性能を十分に発揮出来ないだけでなく、他のR/Cメカを壊す原因にもなります。
 - 走行後のモーターは非常に高い温度になります。連続走行するとモーターを傷める事になりますので、冷却期間を置いてから走行して下さい。

【組み立てに必要な物】

ACCESSORIES AND TOOLS NEEDED FOR [MR-4TC SD LCG DRIFT] ASSEMBLY

■ 走行の為に別にお買い求め頂く物 ■

ADDITIONAL ITEMS REQUIRED FOR USE (NOT INCLUDED IN KIT)

- 2チャンネルプロポ (1 サーボ 1 アンプ仕様)
TWO CHANNEL R/C SURFACE RADIO SYSTEM
AND ELECTRONIC SPEED CONTROL
- 走行用 7.2V バッテリーパック
7.2V BATTERY PACK
- 走行用バッテリー充電器
BATTERY CHARGER
- 走行用モーター
MOTOR
- タイヤ(タイヤ付キットは不要)
TIRES
- 走行用ボディー(ボディー付キットは不要)
BODY
- ボディー塗装用カラー
BODY SPRAY PAINT

■ 袋以外の箱に入っている物 ■

PARTS INCLUDED IN KIT

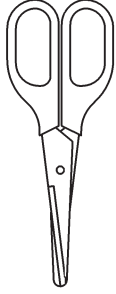
- バンパー
BUMPER
- ホイール
WHEELS
- タイヤ
TIRES
- メインシャーシ
MAIN CHASSIS

■ 別途用意する工具 ■

ASSEMBLING TOOLS REQUIRED (NOT INCLUDED IN KIT)

-  ドライバー (大, 小)
SCREW DRIVER (SMALL & LARGE)
-  ボックスレンチ (7.0mm)
NUT DRIVER (7.0mm)
-  ボックスレンチ (5.5mm)
NUT DRIVER (5.5mm)
-  ラジオペンチ
NEEDLE NOSE PLIERS

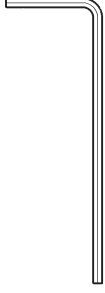
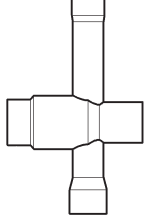
-  ニツパー
SIDE CUTTER

-  ハサミ
SCISSORS

-  カッター
HOBBY KNIFE

■ キットに入っている工具 ■

TOOLS (INCLUDED)

-  六角レンチ
ALLEN WRENCH
(1.5mm & 2.5mm)
-  ボール付六角レンチ
BALL END ALLEN WRENCH
(2.5mm)
-  ターンバックルレンチ
TURNBUCLE WRENCH
-  十字レンチ
NUT WRENCH

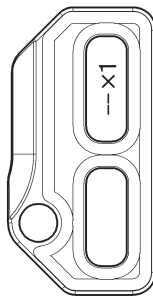
[MR-4TC SD LCG DRIFT]の性能を十分に発揮させる為にイラストを良く参照し説明の順番に従って確実に組み上げて下さい。

For assembly, follow the figures and the instructions closely so that your [MR-4TC SD LCG DRIFT] will perform at its best!!

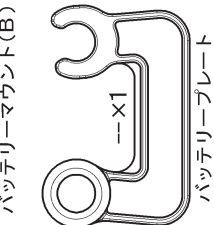
【袋①の内容】

--x2 M3x6 皿ビス --x4 M3x8 皿ビス --x8 M3x10 皿ビス

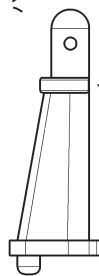
--x2 ベルクランクポスト
--x1 スペーサ(A)



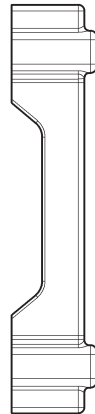
--x1
スペーサ(B)



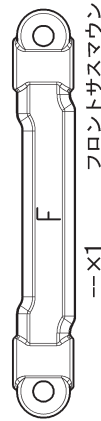
--x1
バッテリーマウント(A)



--x1
バッテリーマウント(C)



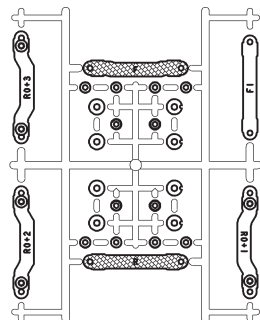
--x2
バッテリーガイド



--x1
フロントサスマウント

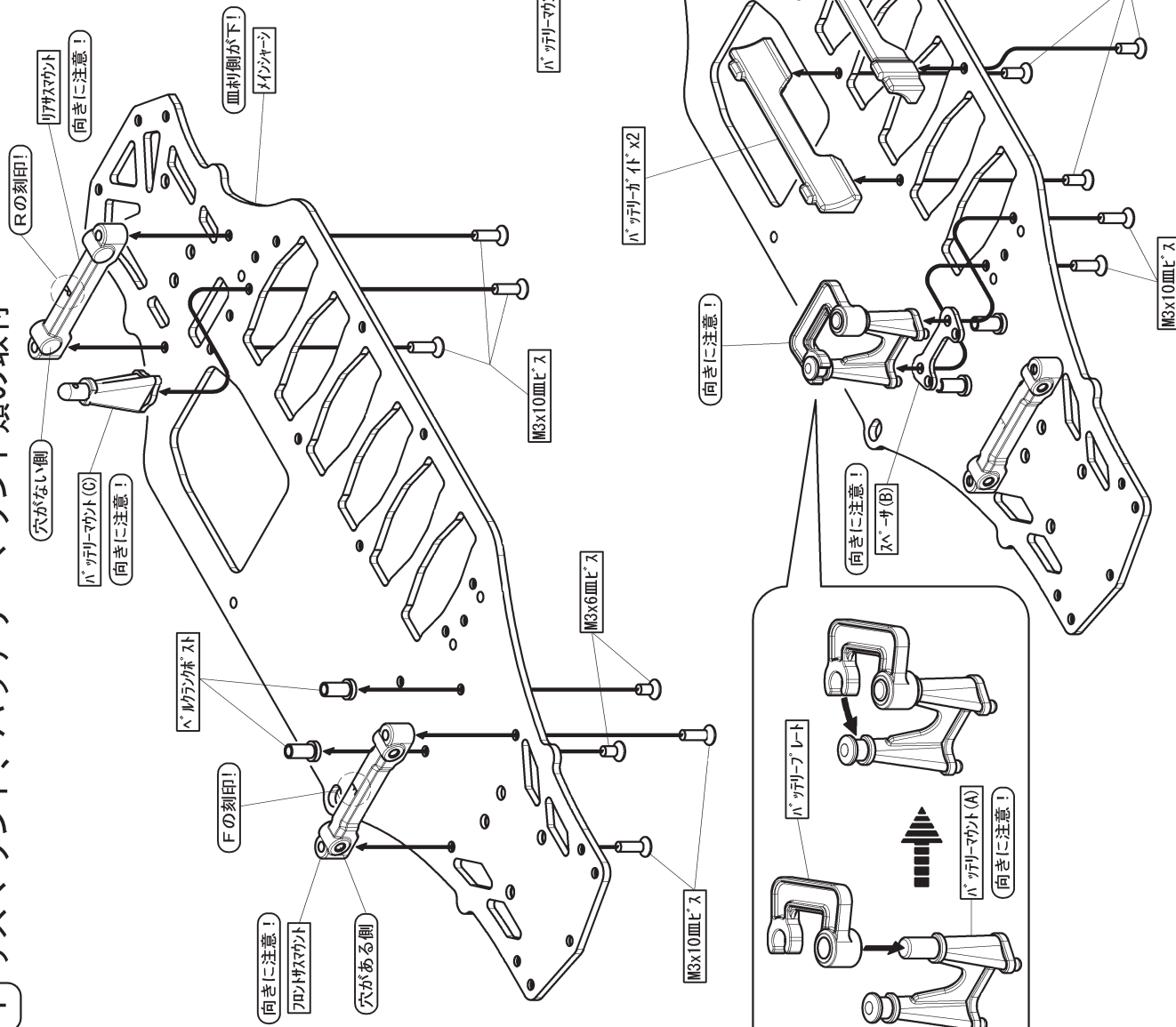


--x1
リアサスマウント



部品の部品を使用します。

1 サスマウント、バッテリーマウント類の取付



2 オプションパーツ (別売) を使用した場合のバッテリー搭載方法

注意！セパレートバッテリーを使用する場合は【SD-118】又は【BD-118G】 & 【BD-118M】が別途必要になります。

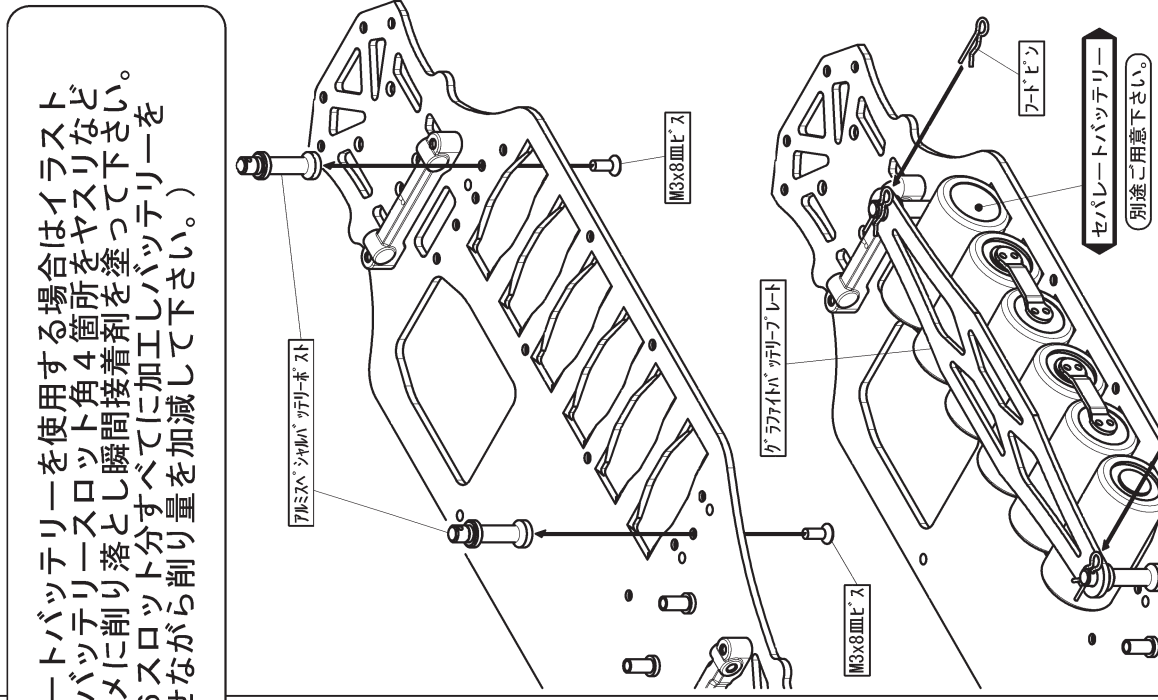
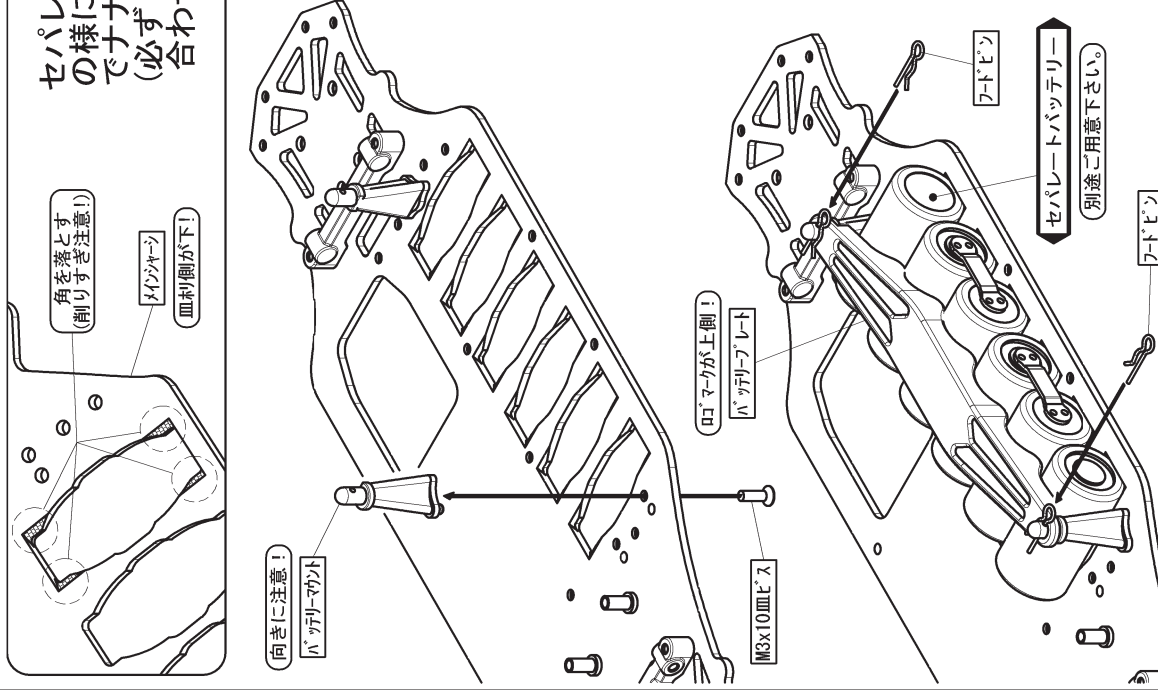
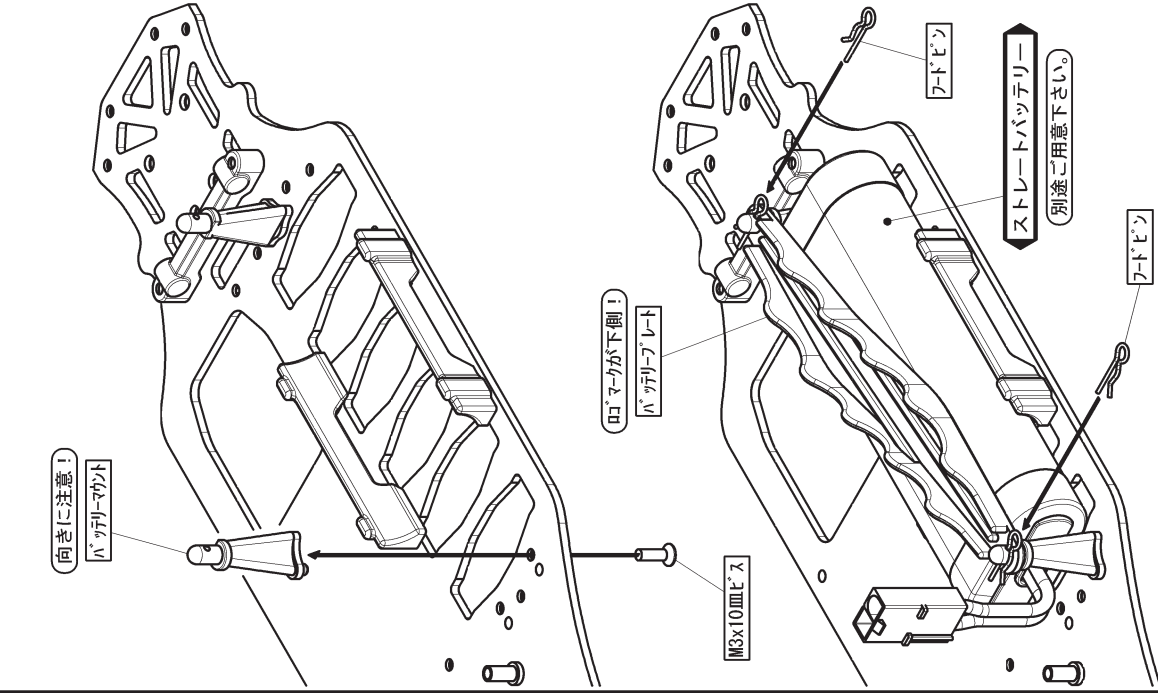
【SD-118 バッテリープレート & マウントセット ●720】

＜ストレートバッテリーを使用＞

＜セパレートバッテリーを使用 ①＞

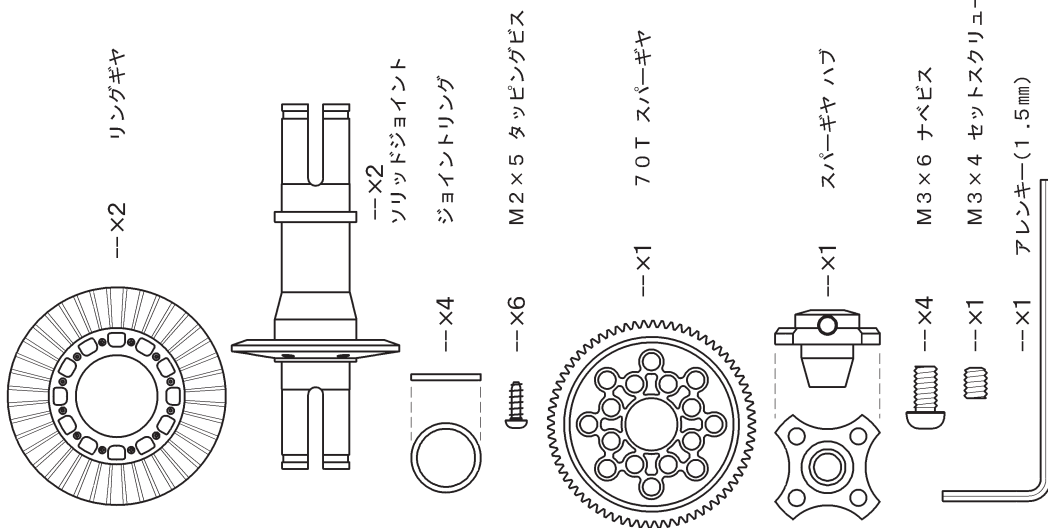
【BD-118G グラファイト バッテリープレート ●1380】
【BD-118M アルミ スパイク バッテリープレート ●480】

＜セパレートバッテリーを使用 ②＞

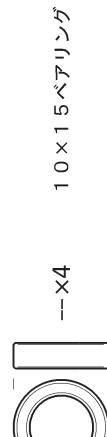
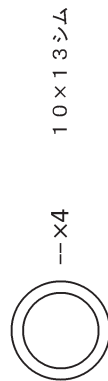


セパレートバッテリーを使用する場合はイラストの様にバッテリースロット角4箇所をヤスリなどでナメに削り落とし瞬間接着剤を塗って下さい。(必ず6スロット分すべてに加工しバッテリーを合わせながら削り量を加減して下さい。)

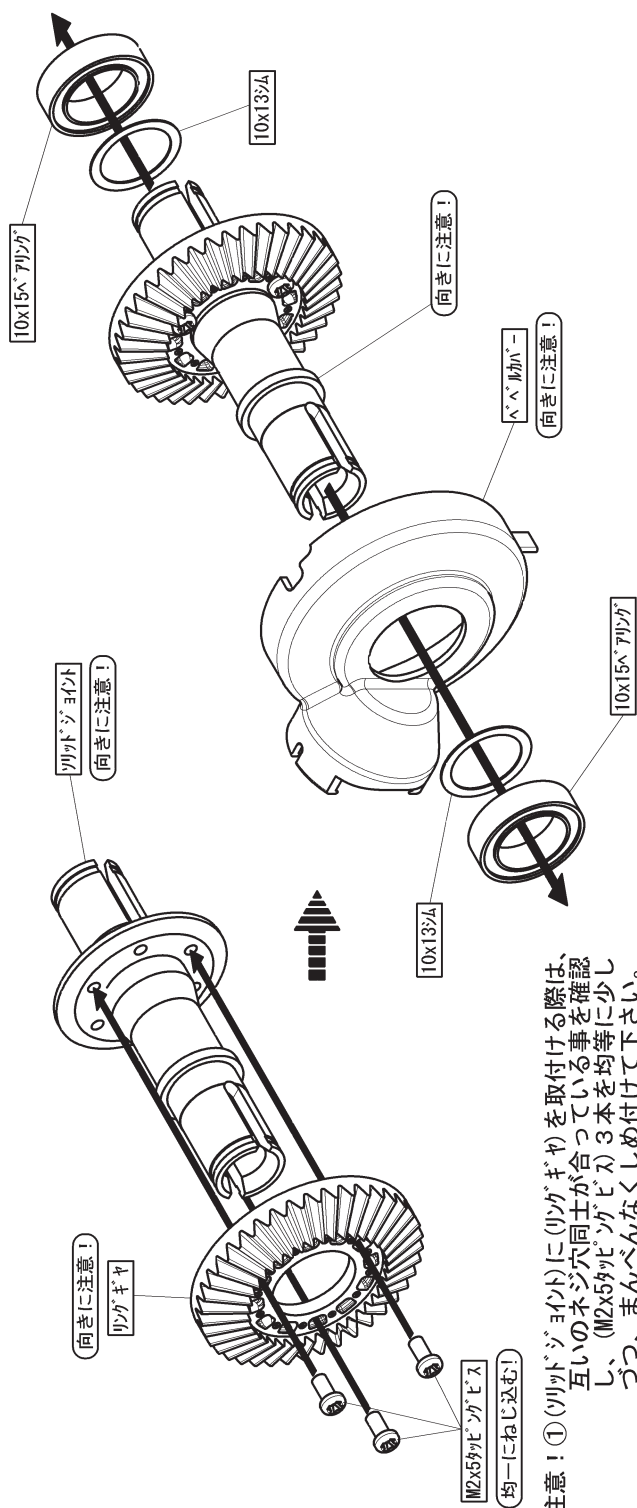
【袋②の内容】



その他、ベベルカパー 2ヶ

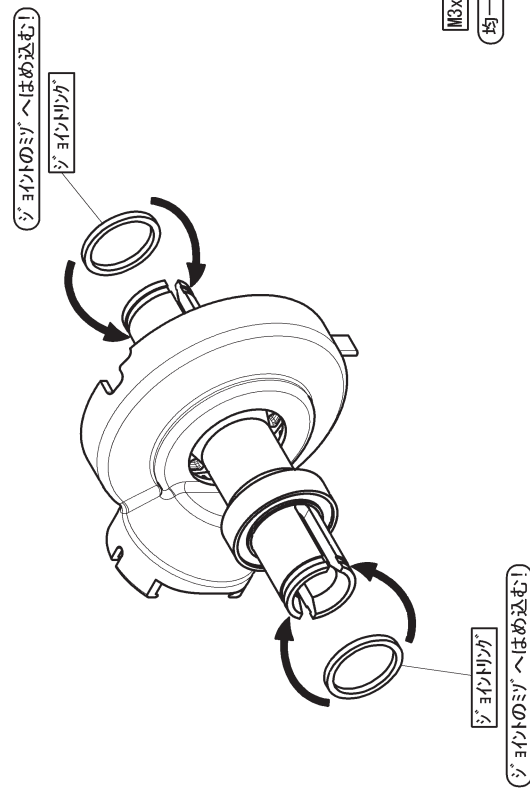


③ ソリッドジョイントの組立て(2セット作ります)



注意! ①(リットジョイント)に(リングギヤ)を取付ける際は、互いのネジ穴同士が合っている事を確認し、(M2x5^タピングビス)3本を均等に少しづつ、まんべんなくしめ付けて下さい。

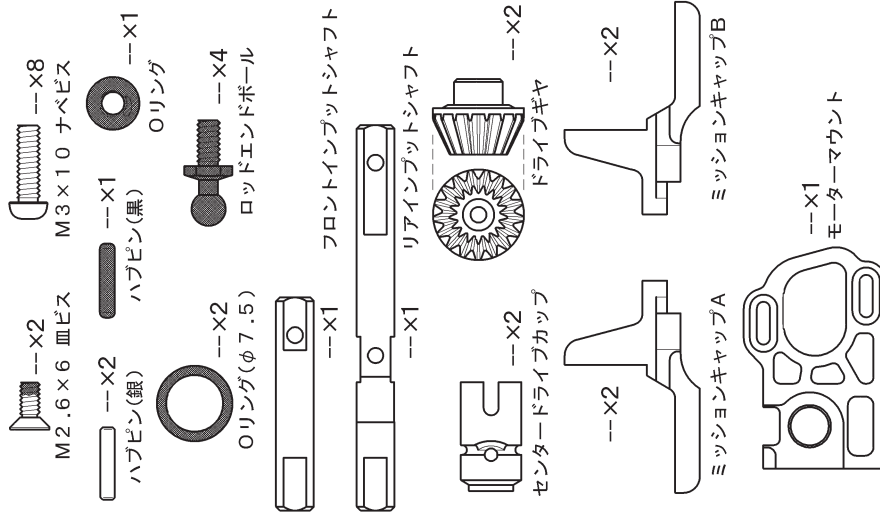
④ スーパーギヤの組立て



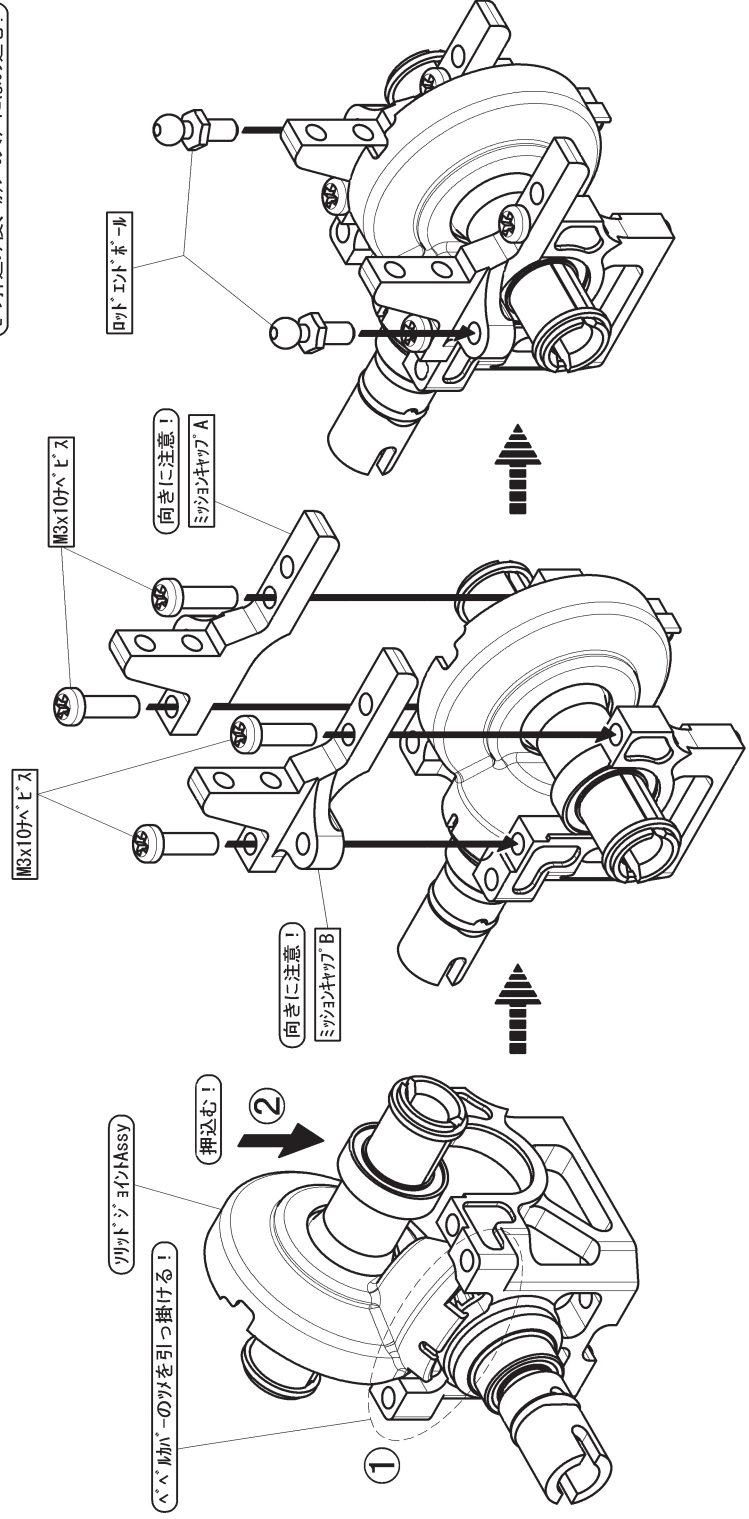
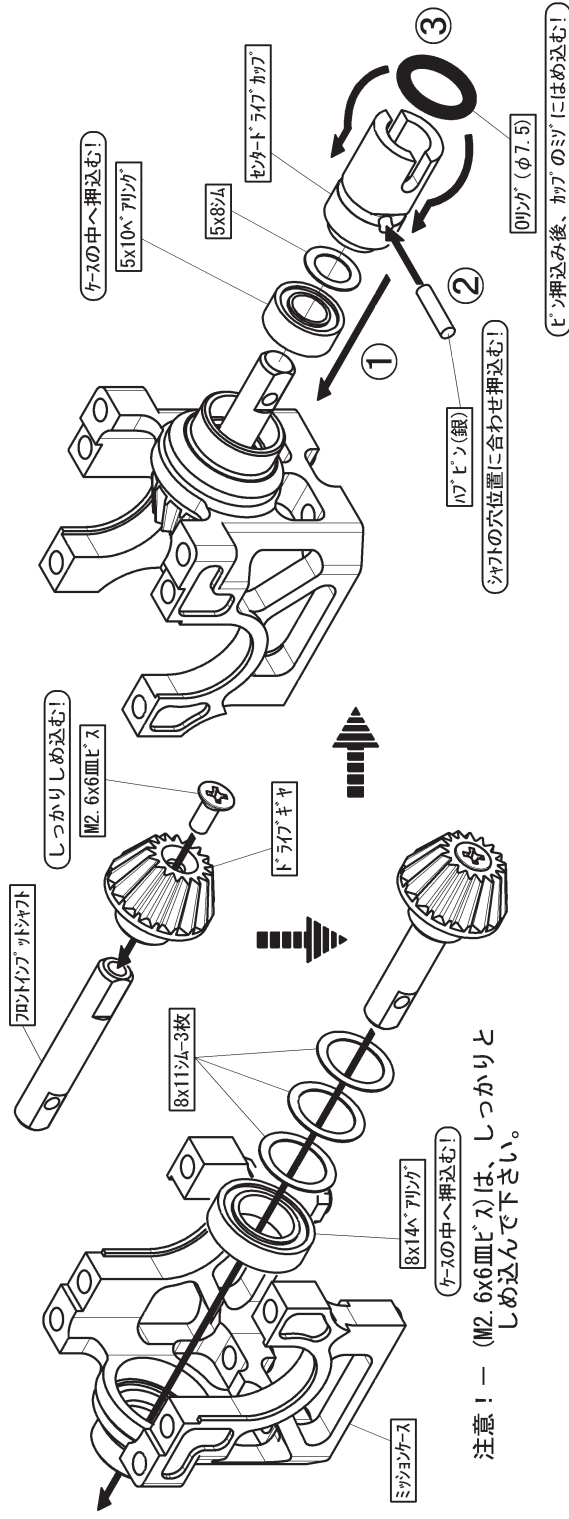
注意! ②(70T^ススーパーギヤ)に(スーパギヤハブ)を取付ける際、互いのネジ穴同士が合っている事を確認し、(M3x6^ナベビス)4本を均等に少しづつしめ付けて下さい。

5 フロントミッションケースの組立て

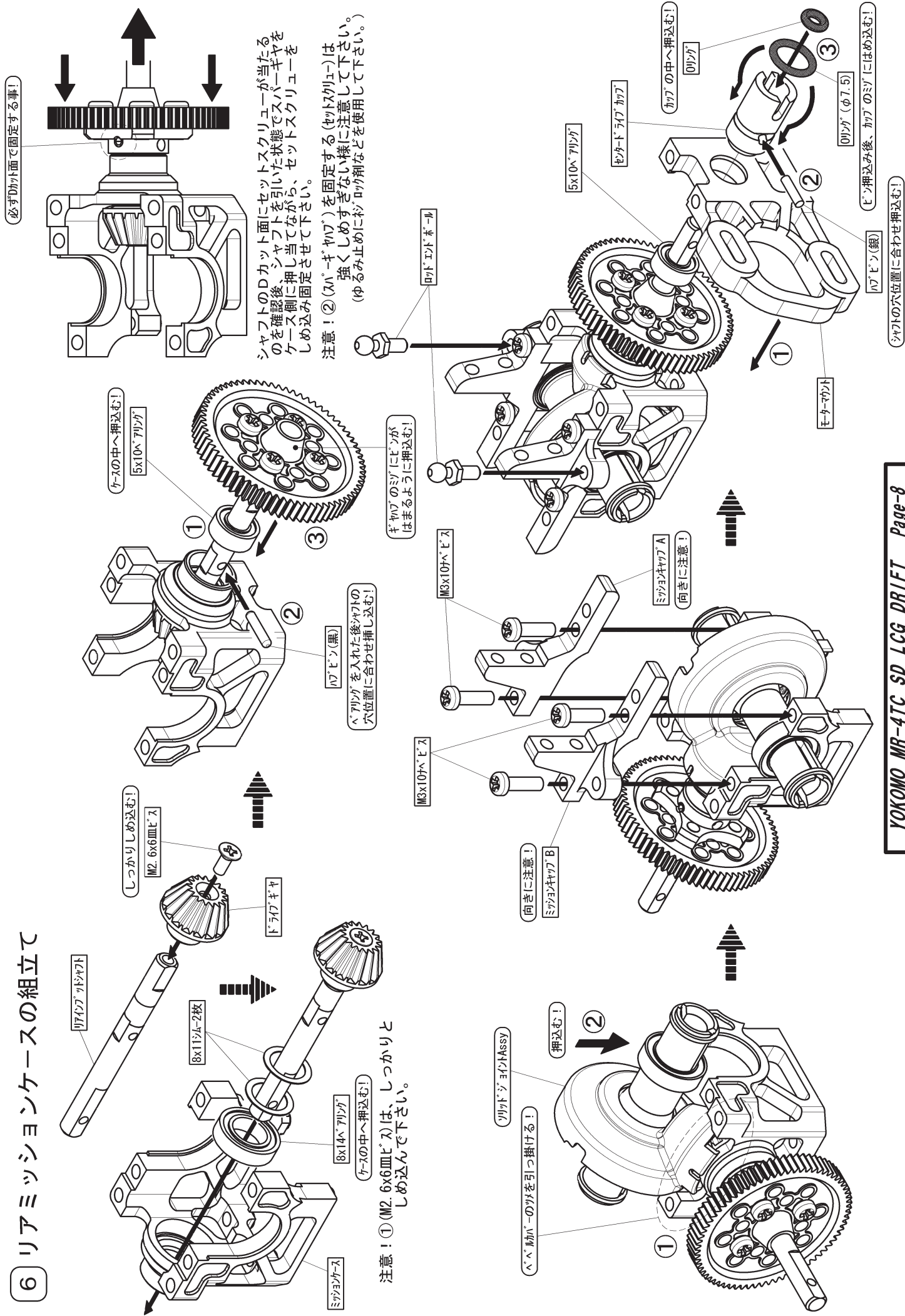
【袋-③の内容】



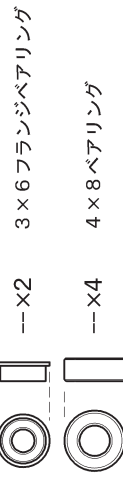
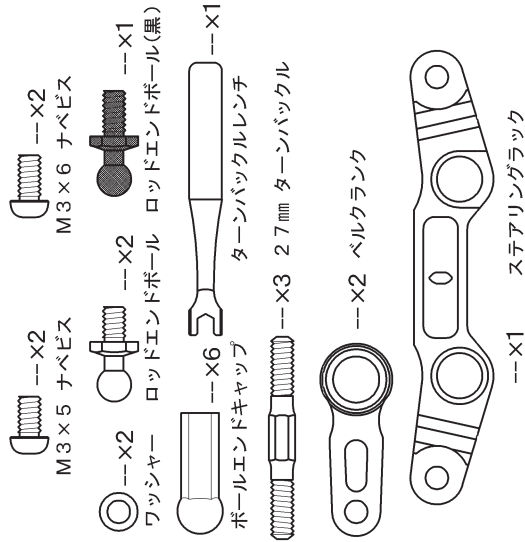
その他、ミッションケース 2ヶ、十字レンチ 1ヶ



6 リアミッションケースの組立て

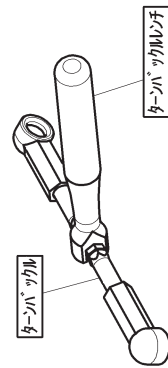
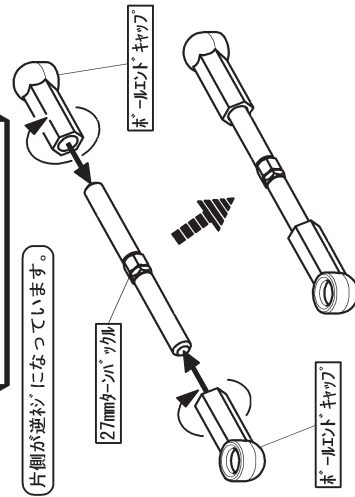


【袋④の内容】

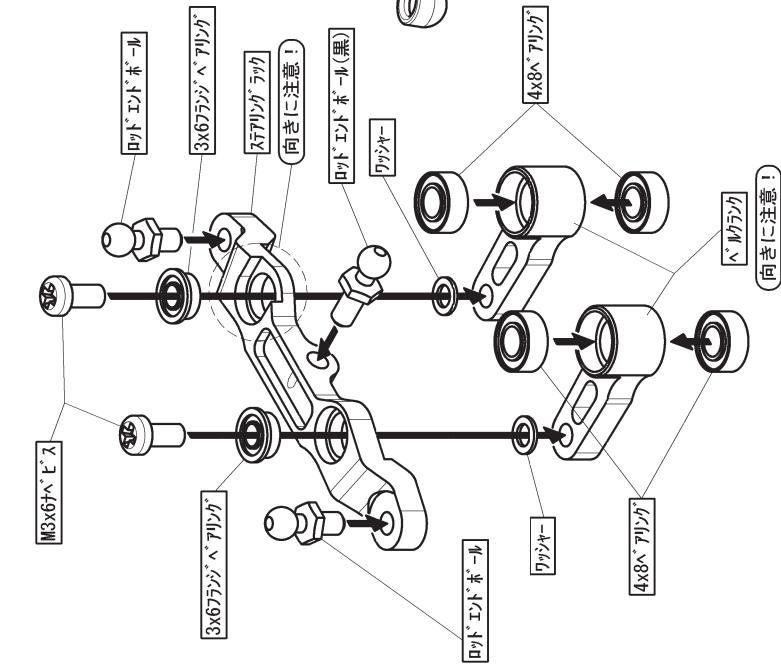


各タイロッドの組立て

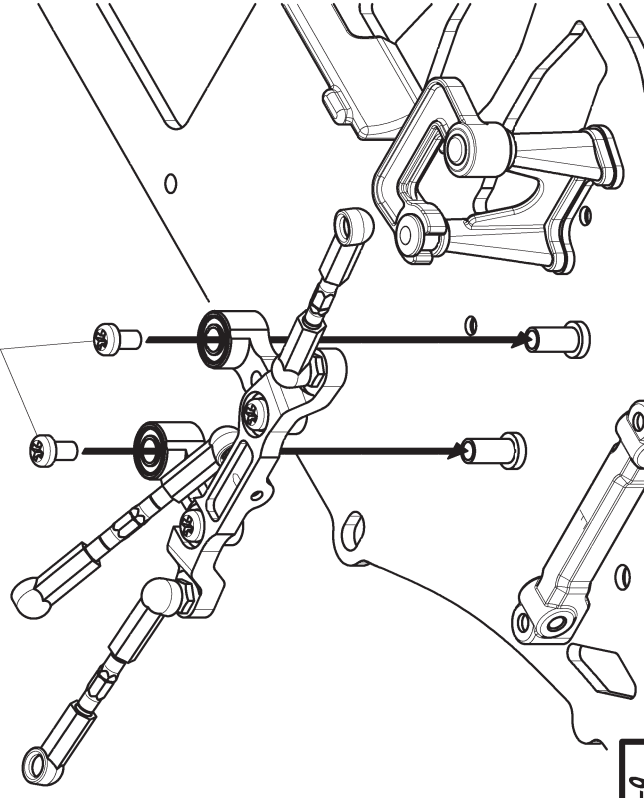
片側が逆さになっています。



7 ステアリングゲレンケージの組立て



M3x5ナベビス

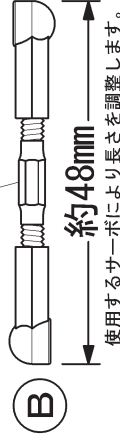


- ・ターンバックルの両側から(ボールエンド)をねじ込みロッドを組立てます。
- ・各ロッド共、下記寸法で作成して下さい。

27mmターンバックル(2ヶ作る)



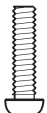
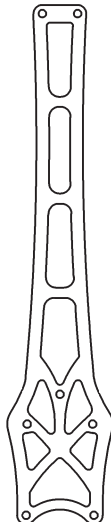
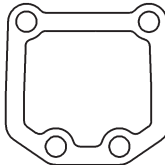
27mmターンバックル(1ヶ作る)

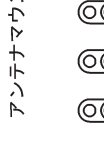


使用するサーボにより長さを調整します。

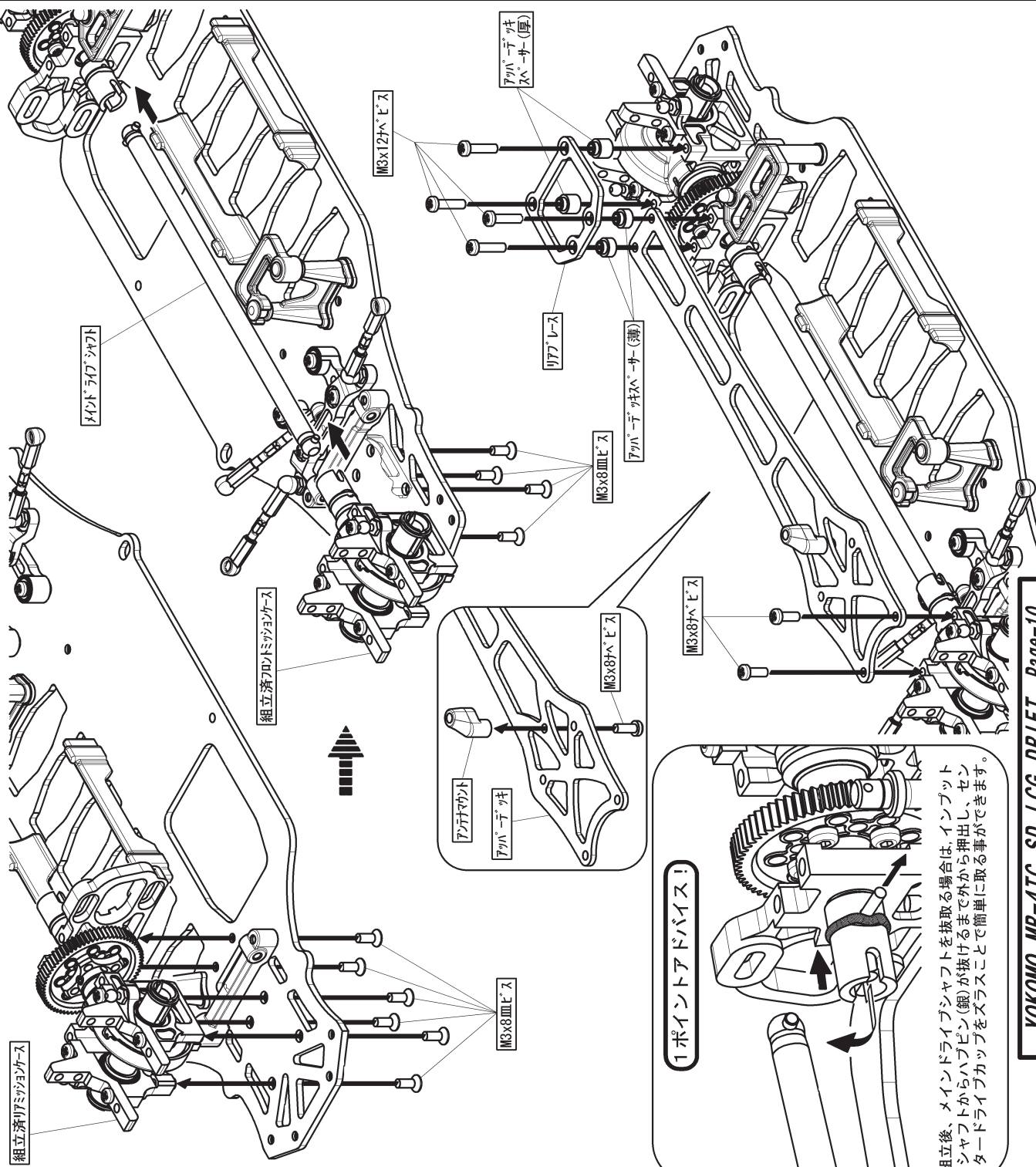
∞

【5-1】の内容【】

-  M3×8 皿ビス
 M3×8 ナベビス
 M3×12 ナベビス
 アッパードッキスペーサー(薄)
 アッパードッキスペーサー(厚)
 メインドライブシャフト
 アッパードッキ
 リアプレート

- x1 アンテナマウント
- 
- The diagram shows the components for antenna mounting. At the top is a square base plate with a central circular hole and four rectangular slots. Below it are four screws, four washers, four nuts, and four spacers. The spacers are long, thin rods with circular ends. The components are arranged in a grid-like pattern, with the base plate at the top, followed by the screws, washers, nuts, and spacers.

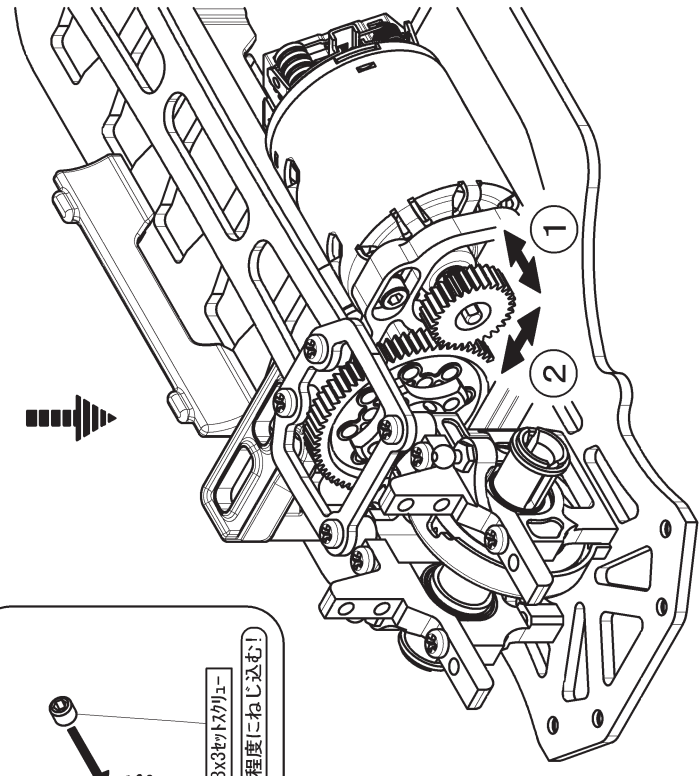
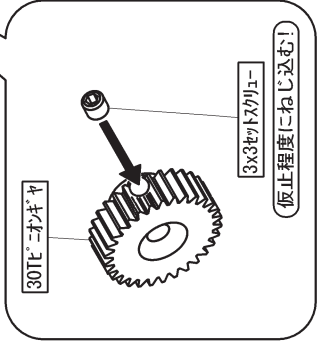
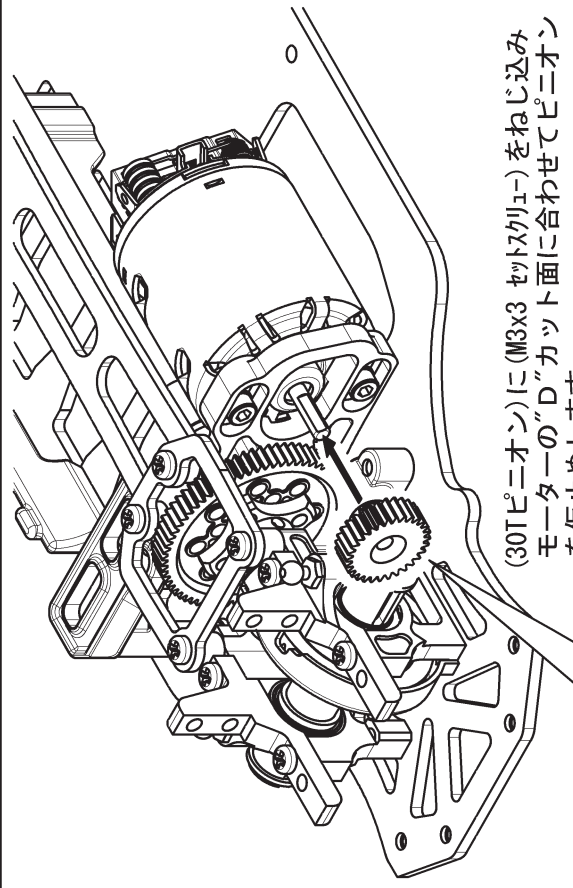
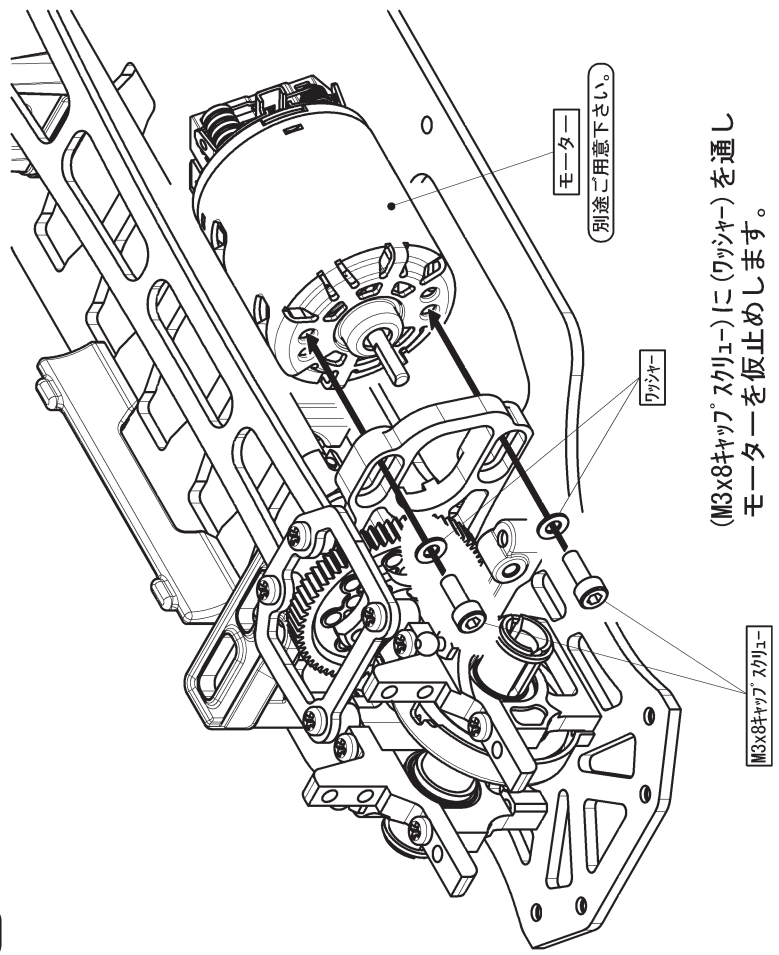
部の部品を使用します。



1ポイントアトバイス!

組立後、メインドライブシャフトを抜取の場合は、インプットシャフトからハブピン(銀)が抜けるまで外から押し出し、セクタードライブカップをズラすことで簡単に取る事ができます。

9 モーター、ピニオンギヤの取付け



- 注意! ①キットには、モーターは含まれておりませんので、別途
ご用意下さい。
- ②ピニオンの取付けは、モーターシャフトの”Dカット”
されている部分に、セツトスクリューが当たる様に
しっかりと締め込んで下さい。
- ③バックラッシュは少し隙間が出来る程度に調整して下さい。
(調整不足は、ノイズ及びギヤ破損の原因になります。)
- ④付属のボール付アレンキー(2.5mm)のボール部は仮止め
程度の作業でご利用下さい。本締めなどを行う場合は、
必ず反対側フラット部で行って下さい。
- ⑤連続走行はモーターに必要な以上の負荷を掛けるだけでなく
寿命も短くなりますので、完全に冷えた事を確認してから
走行をさせて下さい。

【 袋⑥ の内容 】

	--x2	M3x8 キャップスクリュー
	--x1	M3x3 セツトスクリュー
	--x2	ワッシャー
	--x1	30T ピニオンギヤ
	--x1	ボール付アレンキー(2.5mm)

スパーギヤの歯幅にかみ合うようにピニオンギヤの
位置を調整し、セツトスクリューを本締めします。
バックラッシュを合わせ、キャップスクリュー2本
を本締めします。

10) サーボセーバー、サーボの取付け

- サーボマウントスペース
--X2

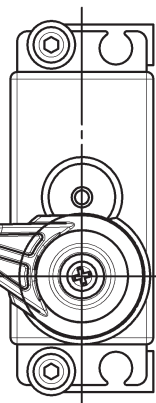
注意！②(サーボホールド)を取付ける前に必ず、サーボのニュートラルを出して下さい。
(詳しくはプロポセットの説明書をご覧ください。)

- ③キット付属の(サボホーンP)は3種類用意されています。
必ずご使用になるサボホ(メーカー)に合ったホーンを
お使い下さい。
(形が合わないサボホーンを使うとサーボに無理な力
が掛かり、故障の原因になります。)



刻印	メーカー
F	フタバ
H	ハイテック
JKS	JR, KO, サンワ

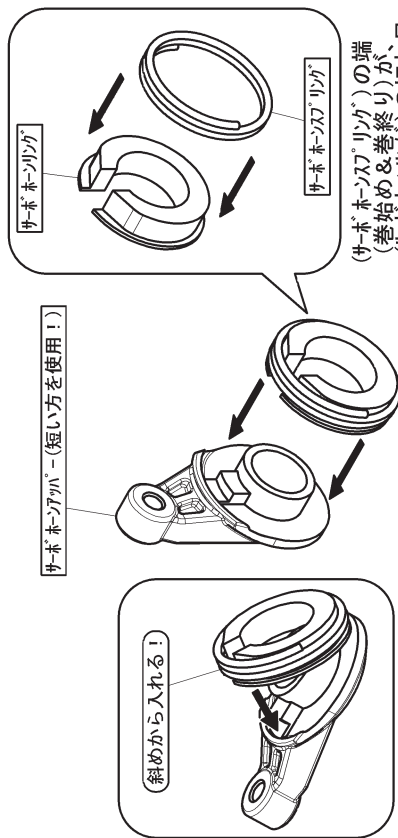
約 5 mm



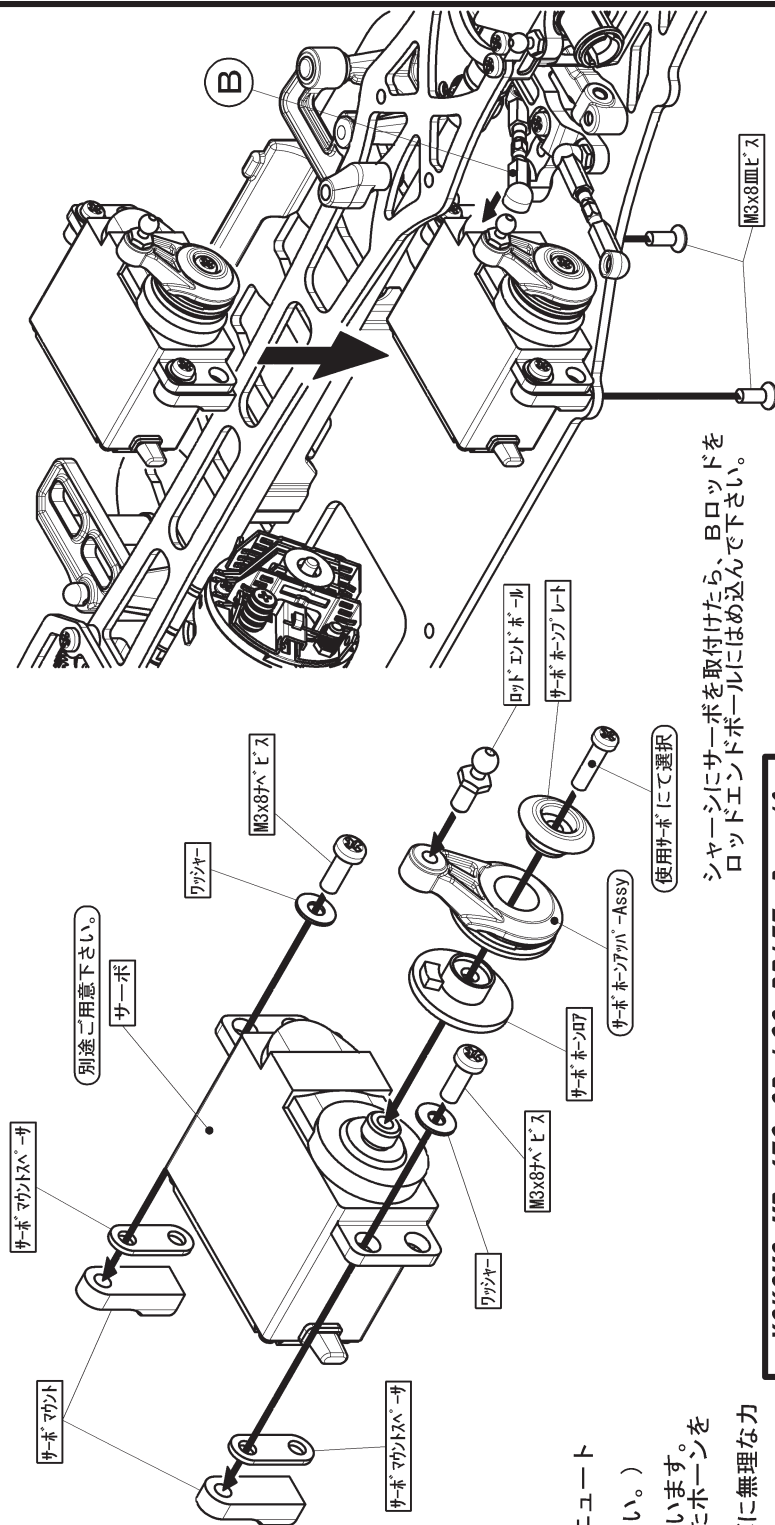
サーボのニュートラルを出した後、イラストのようにサーボホーンを約5mm(1山分)ずらして取付けて下さい。

注意！①サーボホーンを固定するビスは、使用するサーボに付属されているネジ部と同タイプのビスを使用して下さい。
(本キット付属のビスは、 $\text{M2.6} \times 10\text{mm}$ ビス、 $\text{M3} \times 10\text{mm}$ ビス、 $\text{M3} \times 10\text{mm}$ ツグビス、 $\text{M3} \times 10\text{mm}$ ビスの3種類です。)

(サボホーリング)のはめ込みが固い場合は、イラストの様に斜めから入れて下さい

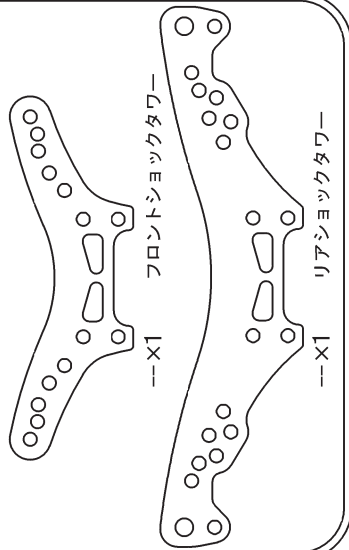
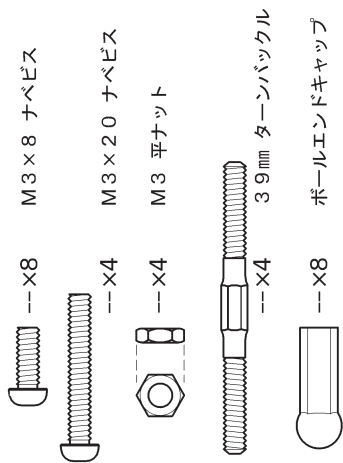


(サホホンスプリング)の端
(巻始め&巻終り)が、
(サホホンスプリング)の切れ
にかからないよう取付
て下さい。



シャーシにサーボを取付けたら、Bロッドを
ロッドエンドボールにはめ込んで下さい。

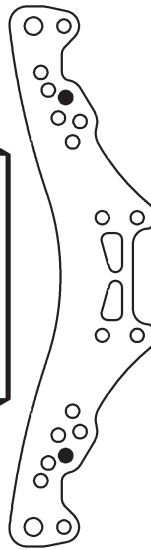
【 袋-⑧ の内容 】



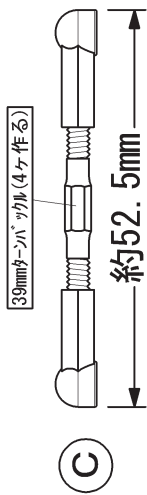
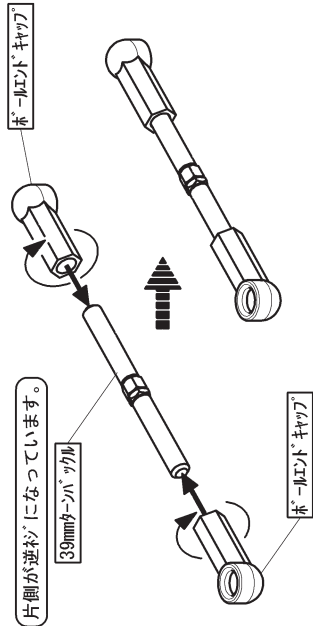
フロントショックタワー



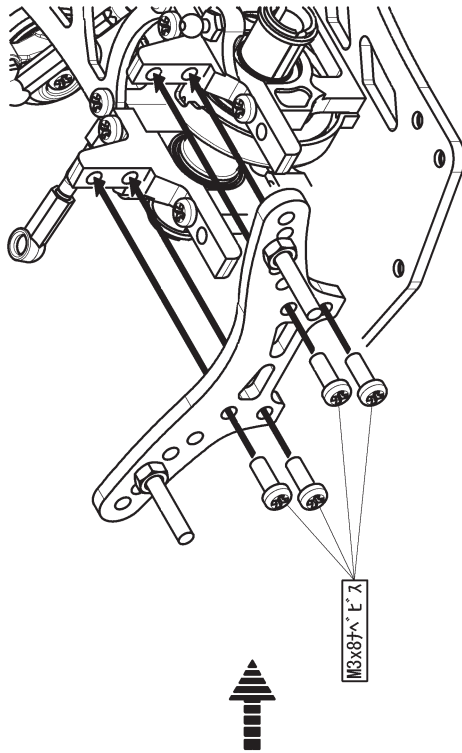
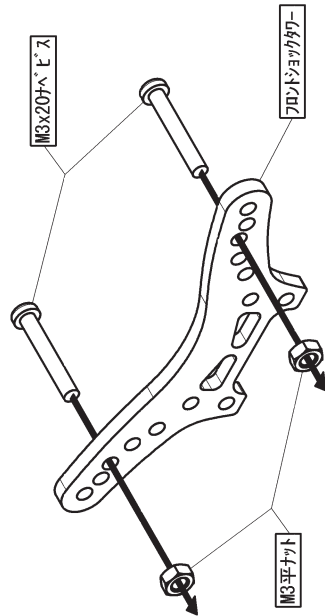
リアショックタワー



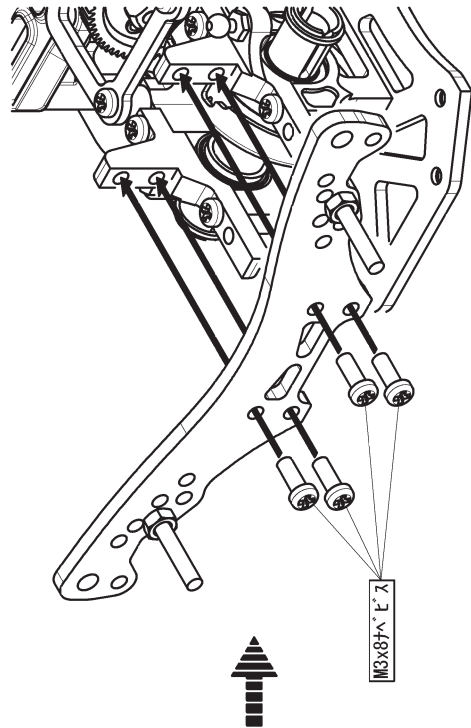
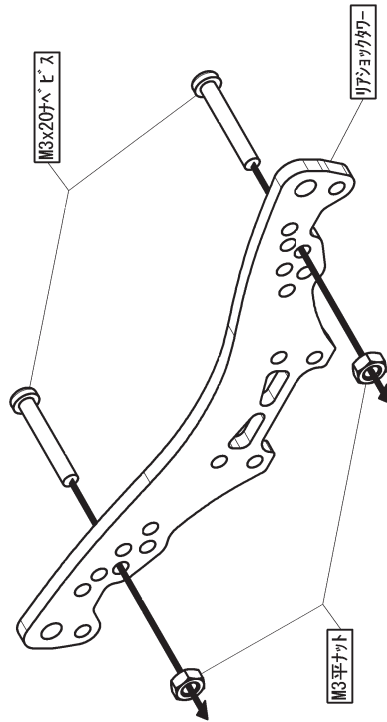
11 前後ショックタワーの取付け



フロントショックタワーの取付け



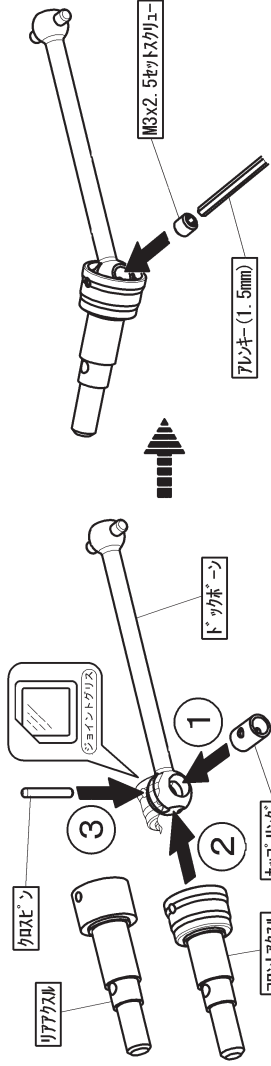
リアショックタワーの取付け



12 フロント&リアハブキャリアの組立て

フロント用、リア用と同じように2セット作ります。

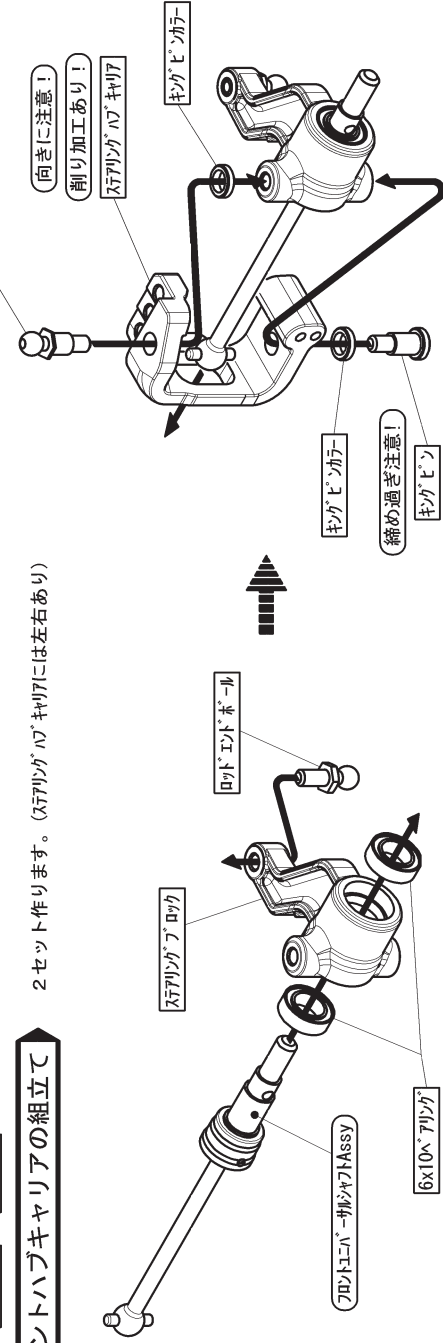
注意！①アクスルにドックボーンをはめる時は必ずジョイントグリスを塗って下さい。



※必ず表の組合せで組立てる事。

フロントハブキャリアの組立て

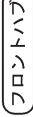
2セット作ります。(ステアリング・ハブ・キャリアには左右あり)



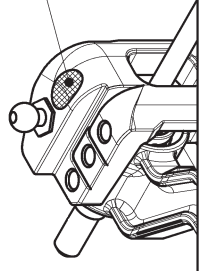
2セット作ります。



【反対側も、対称に組立てます。】



削り取る！

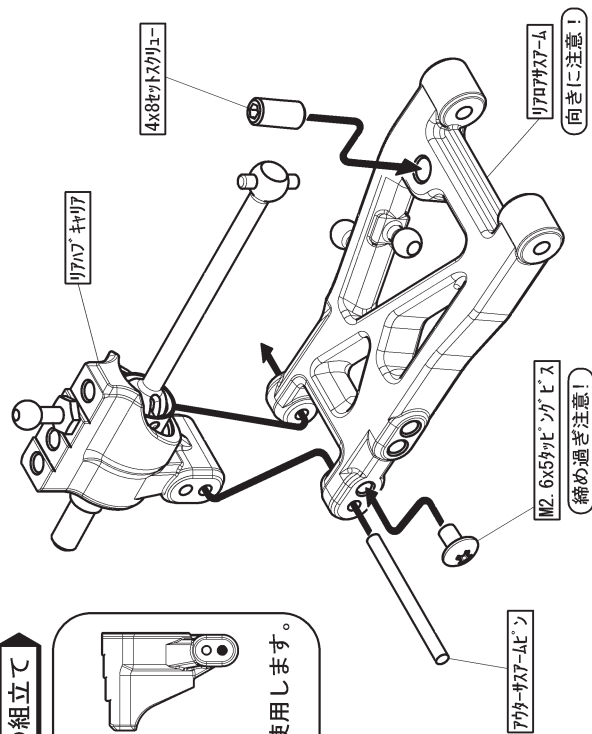
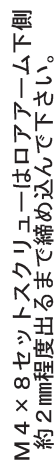


13 フロント&リアロアサームの組立て

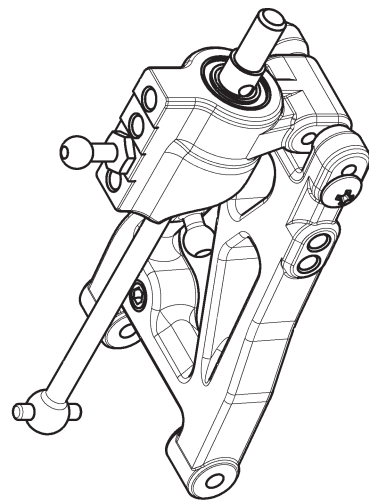
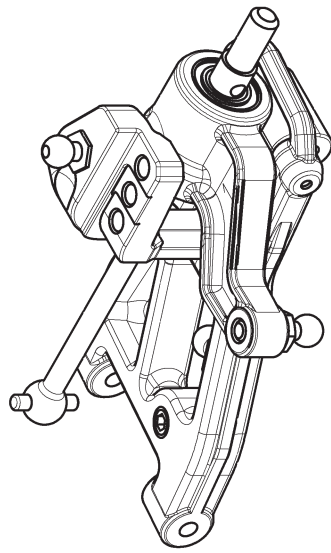
- X2 リアロアサスアーム

●部の穴を使用します。

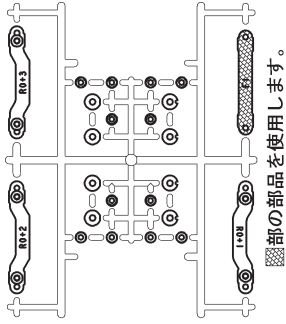
●部の穴を 사용합니다。



【反対側も対称に組立てます。】

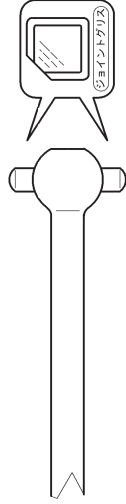


14 フロントロアサームの取付け



部の部品を使用します。

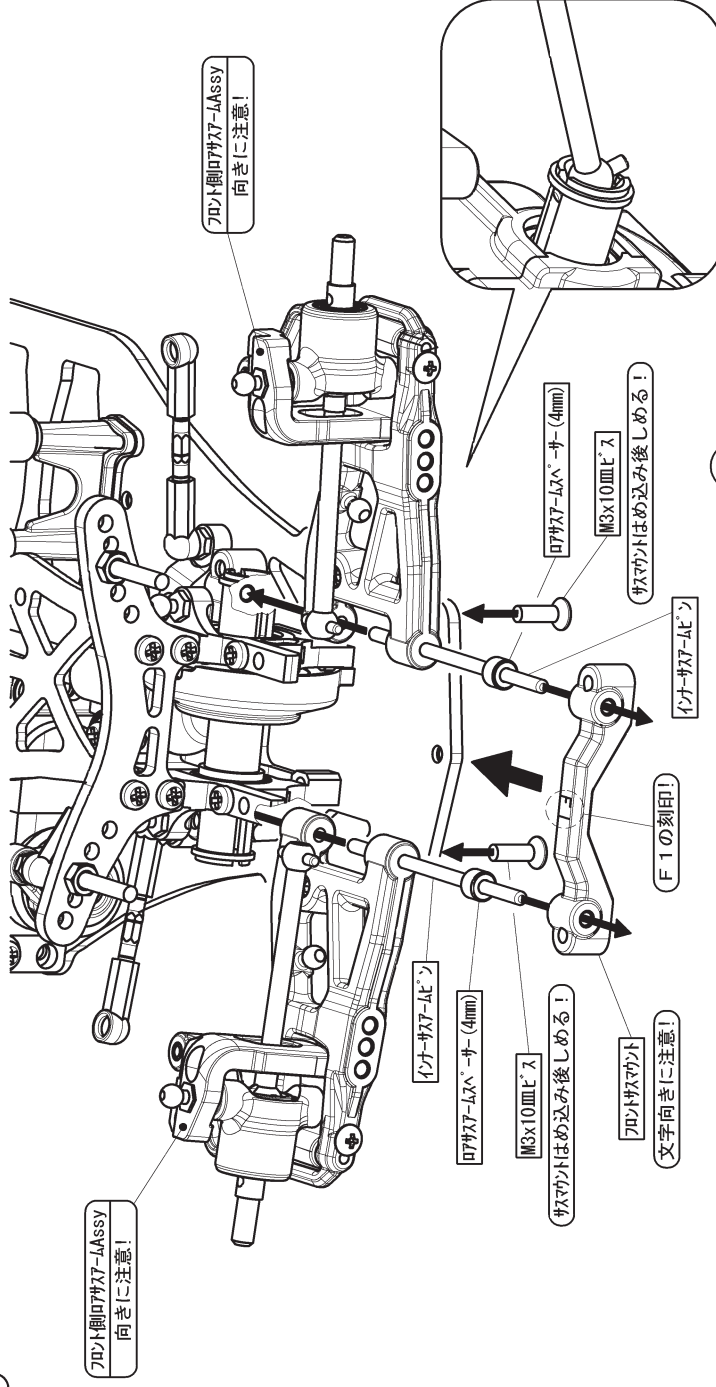
【取付け前にちょっと注目！】



・フロント、及びリアロックボーンシャフトのピンには必ず(ジョイントグリス)を塗る様にして下さい。

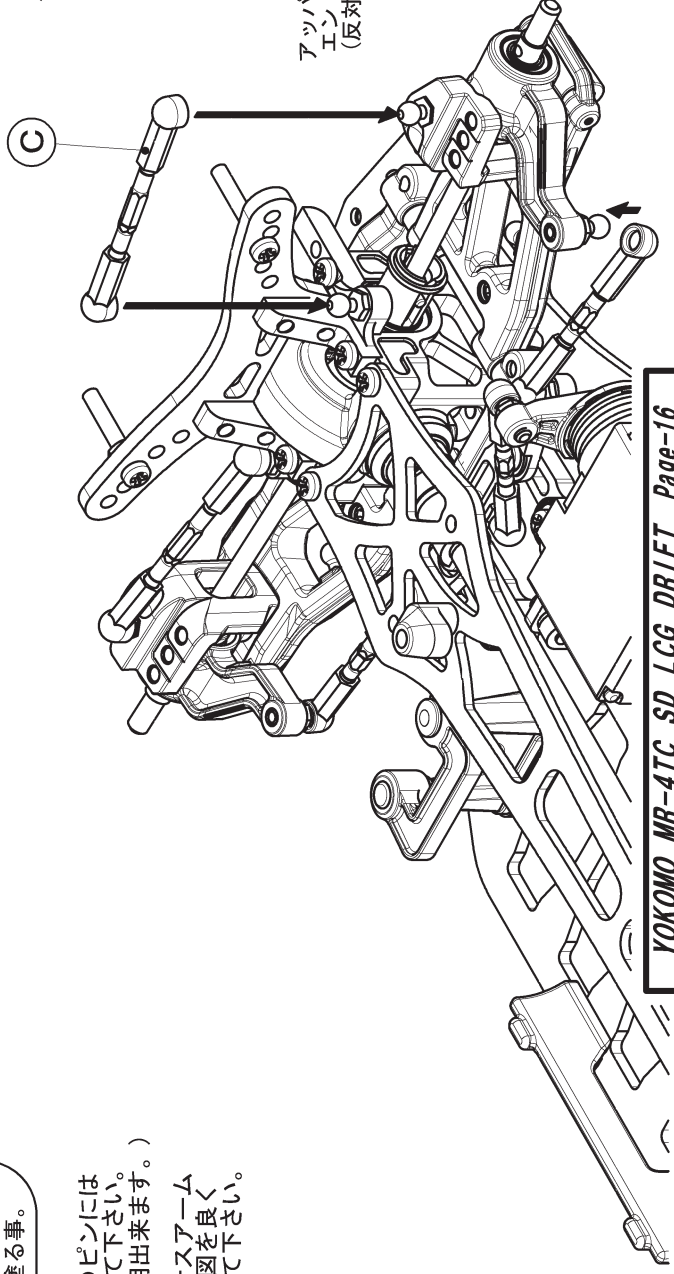
注意！①フロントドックボーンシャフトのピンには必ず(ジョイントグリス)を塗る様にして下さい。(別売のブラックグリスでも代用出来ます。)

②前工程で組立てたフロントロアサームには、左右の向きがあります。図を良く参照し間違いの無い様に組立てて下さい。



ジョイントカップにドックボーンを入れた状態でサスアームピンをマウントにさし込み固定して下さい。

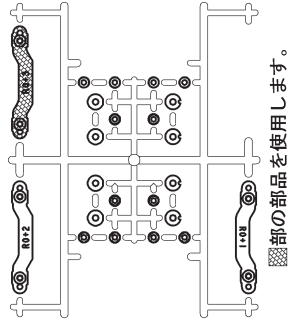
アップ-アーム、タイロッドをボールエンドにはめ込みます。(反対側も同じ様にはめ込みます。)



15 リアロアサスアームの取付け



---x1 リアサスマウント



各部の部品を使用します。

マウントの刻印表示

マウントの刻印表示は以下の様になります。

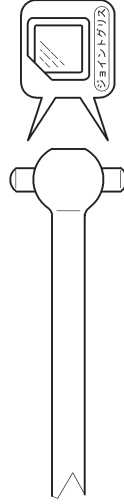
F1 = フロント用スキッド 1度
R0+1 = リア用トーイン 1度
R0+2 = リア用トーイン 2度
R0+3 = リア用トーイン 3度

他2種類のスペーサーは以下の様になります。

キリ欠きなし = 高さ調整用 1mm厚 (1枚)
キリ欠きあり = スキッド角調整用 1度 (1枚)

※小さいスペーサー (12ヶ) は使用しません。

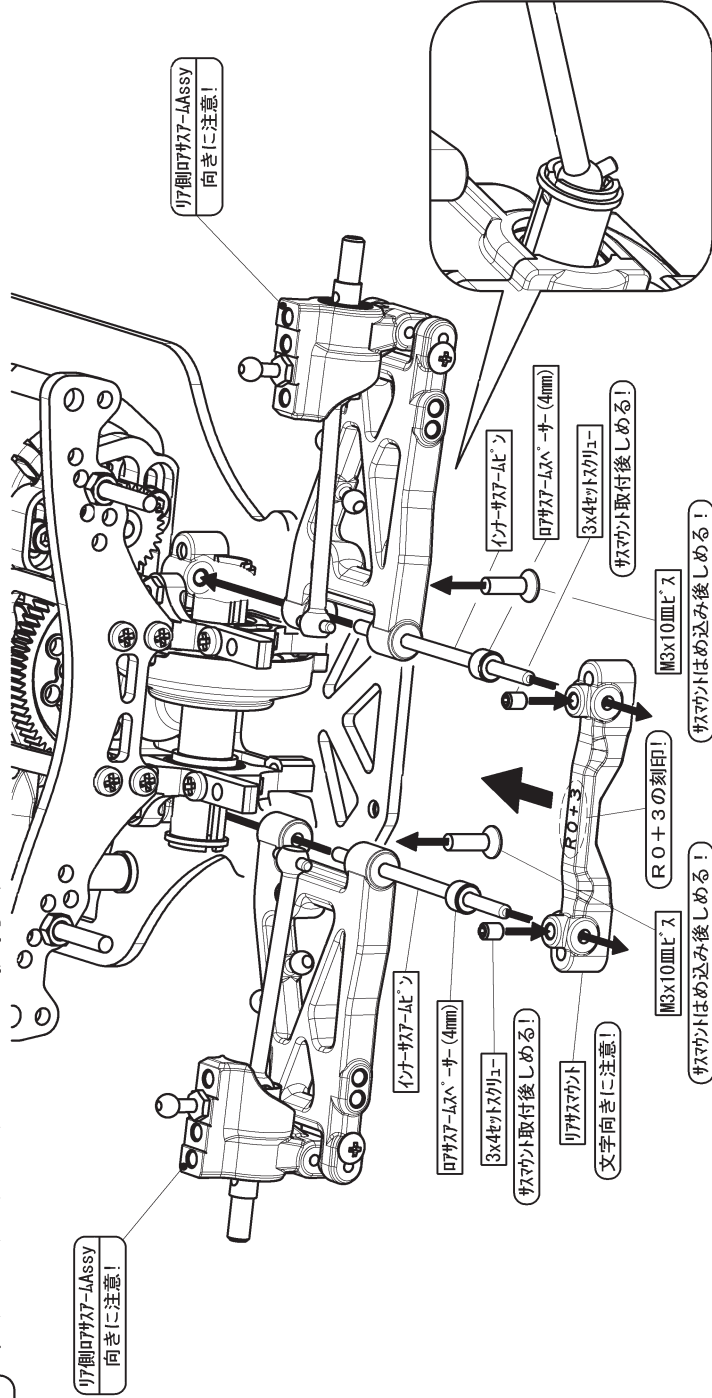
【取付け前にちょっと注目！】



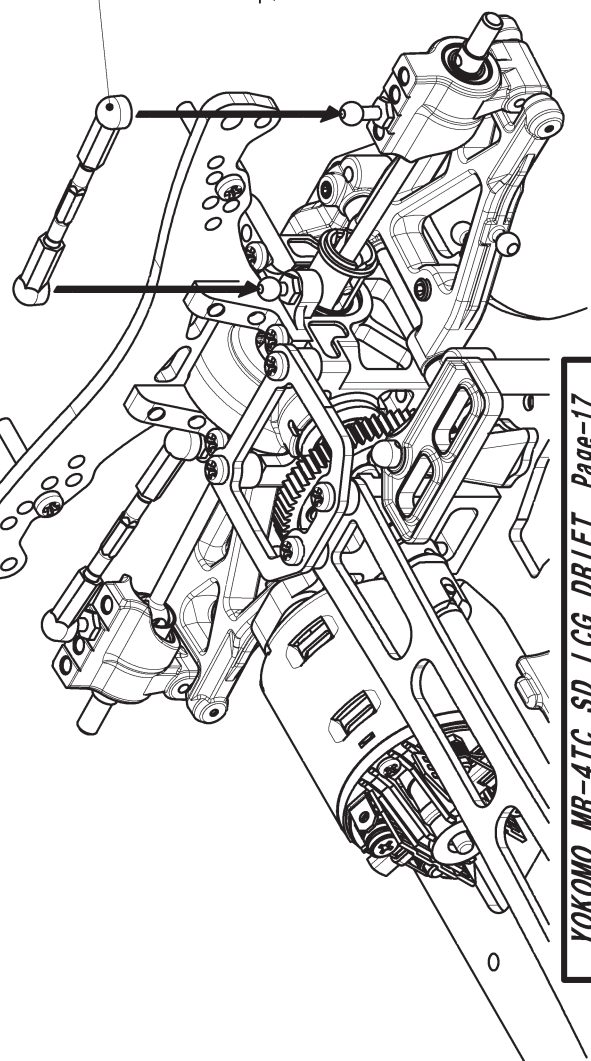
・フロント、及びリアドックボーンシャフトのピンには必ず (ジョイントグリス) を塗る事。

注意！①リアドックボーンシャフトのピンには必ず (ジョイントグリス) を塗る様にして下さい。
(別売のブラックグリスでも代用出来ます。)

②前工程で組立てたリアロアサスアームには、左右の向きがあります。図を良く参照し間違いの無い様に組立てて下さい。

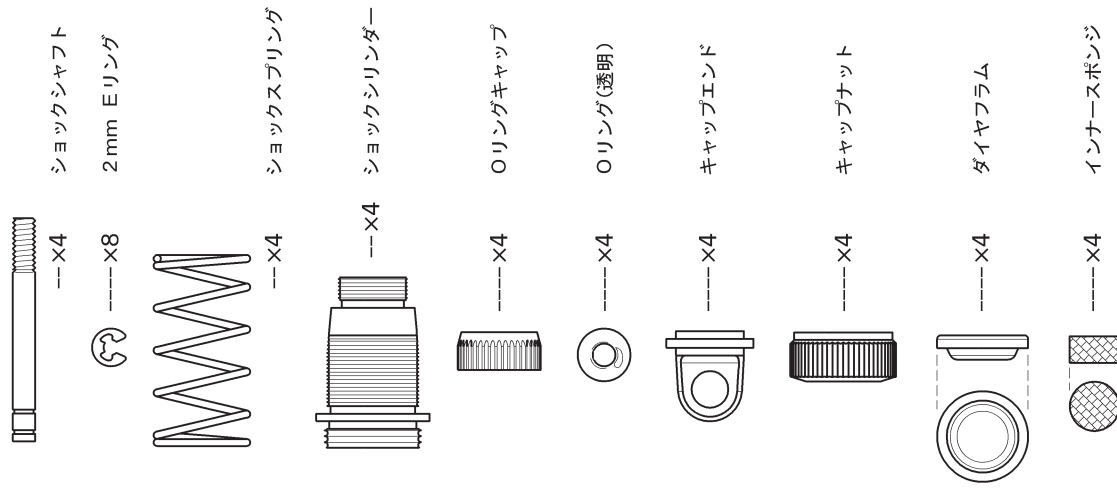


ジョイントカップにドッグボーンを入れた状態でサスアームピンをマウントにさし込み固定して下さい。

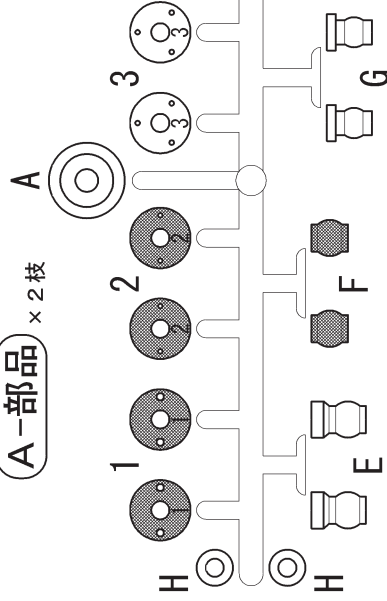


アッパーアームをボールエンドにはめ込みます。
(反対側も同じ様にはめ込みます。)

【袋⑫の内容】

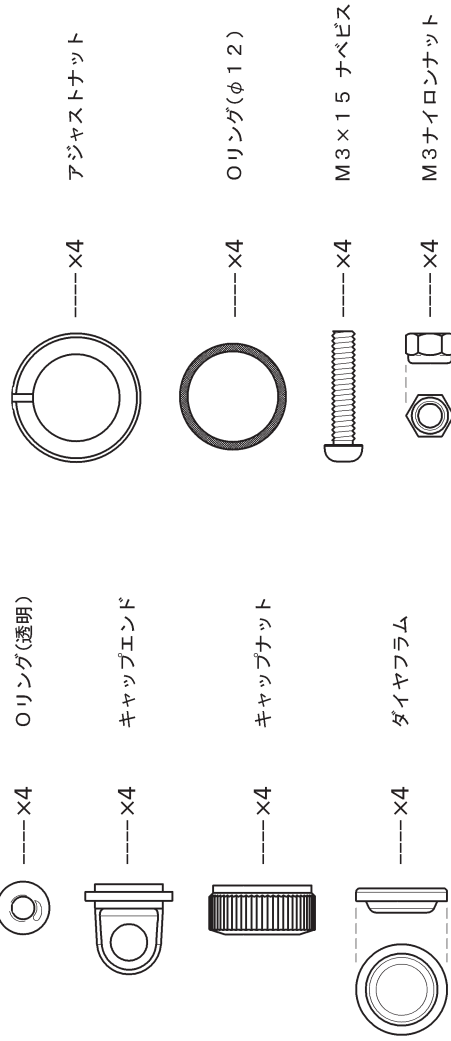
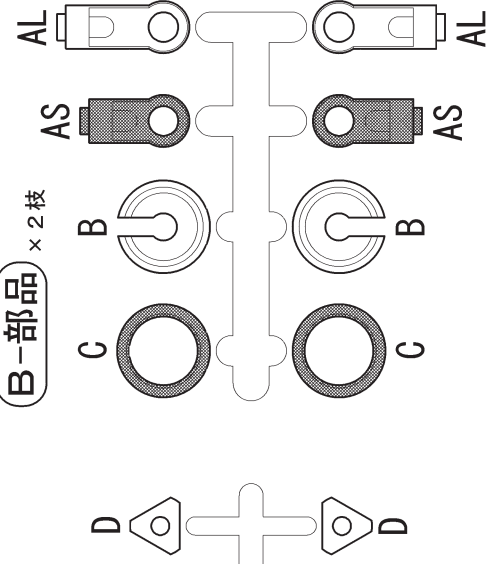


A-部品 × 2枝



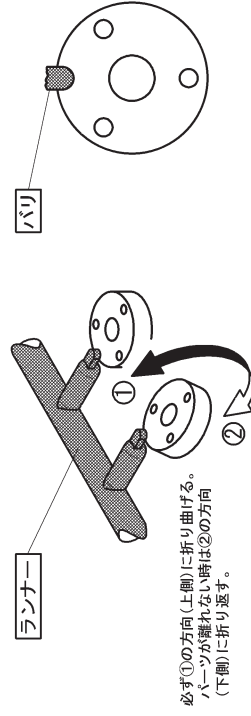
部の部品は
使用しません。

B-部品 × 2枝



その他、ショックオイル 1ヶ

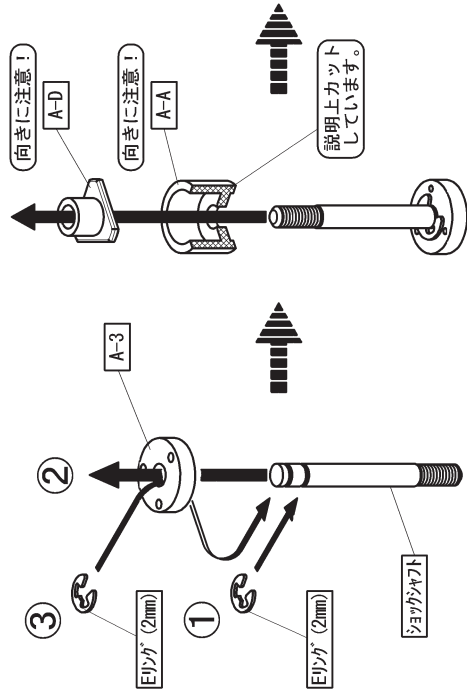
【ランナーから使用するパーツを切り離す】 【バリはカッターで切り落とす】



注意！②ランナーからパーツを切り離す際は、図の様に
 折り曲げ、もしくはニッパーなどで切り離し
 て下さい。なお、パーツにバリなどが残って
 しまった場合は、カッターなどで丁寧に切り
 落として下さい。

注意！①ダンパーは非常に多くのパーツ類から構成されています。
 組立てる際には、間違えないよう注意して下さい。

16 ダンパーの組立て(4本作ります。)

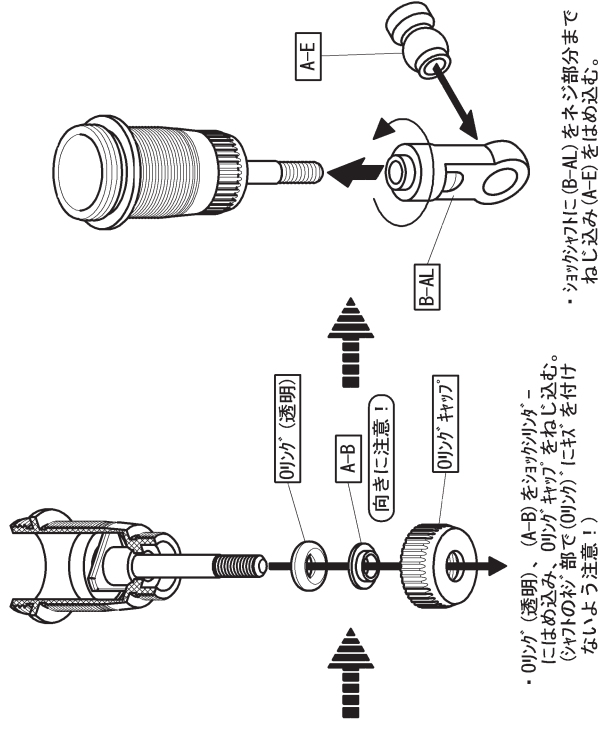


・シヨックパイプに(2mmEリング) (A-3) ヒストを番号通りにはめ込む。

・シヨックパイプ(上記パイプを通す。(パイプの向きに注意！))

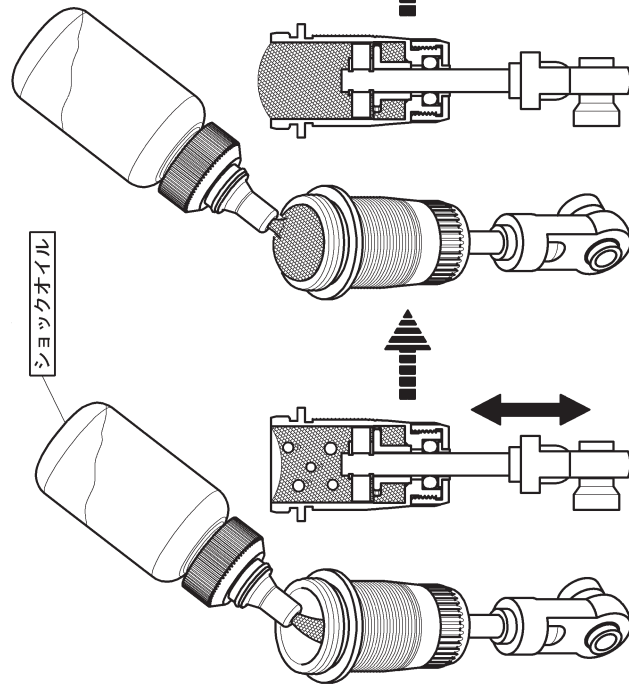
・シヨックパイプにシヨックパイプをいっばいまで引く。

・シヨックパイプからシヨックパイプ (A-A) 押込み用シグを取出し、シヨックパイプのみシヨックパイプに戻す。



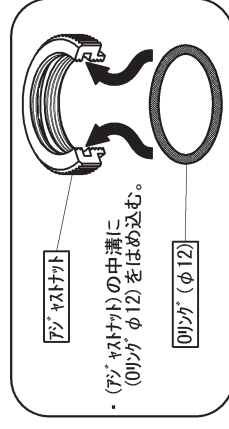
・Oリング (透明)、(A-B) をシヨックパイプにはめ込み、Oリング キャップ (パイプの下部に Oリング) にねを付け、ねじ込み (A-E) をはめ込む。

・シヨックパイプに (B-AL) をねじ部分までねじ込み (A-E) をはめ込む。

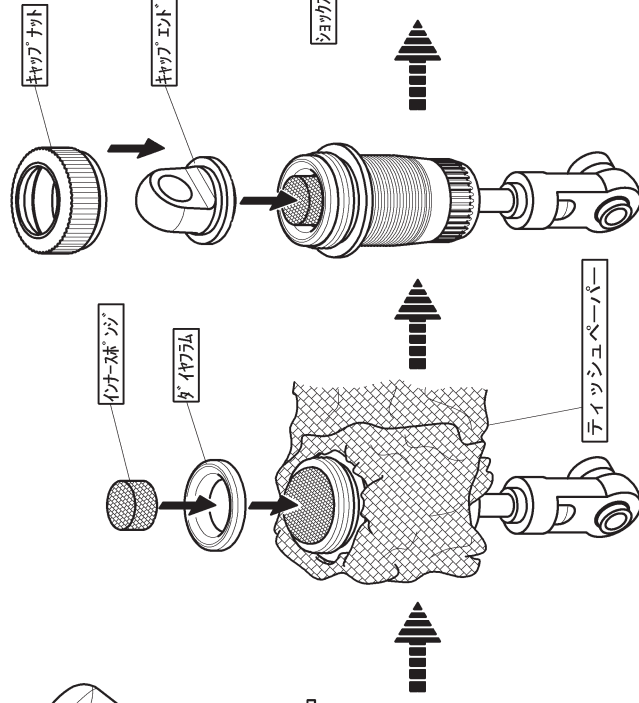


・シヨックパイプにシヨックパイプを入れ、シグを上下にゆっくりと動かし気泡を抜く。

・シグの口元をいっばいまでシヨックパイプに入れる。(気泡を入れないように注意！)

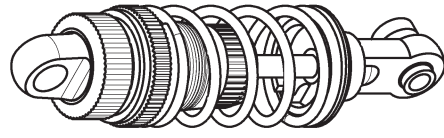


・シヨックパイプに (アジャストナット) を奥までねじ込む。



・シヨックパイプにティッシュペーパーを巻き付け (ティッシュペーパー) (ティッシュペーパー) を奥までねじ込む。

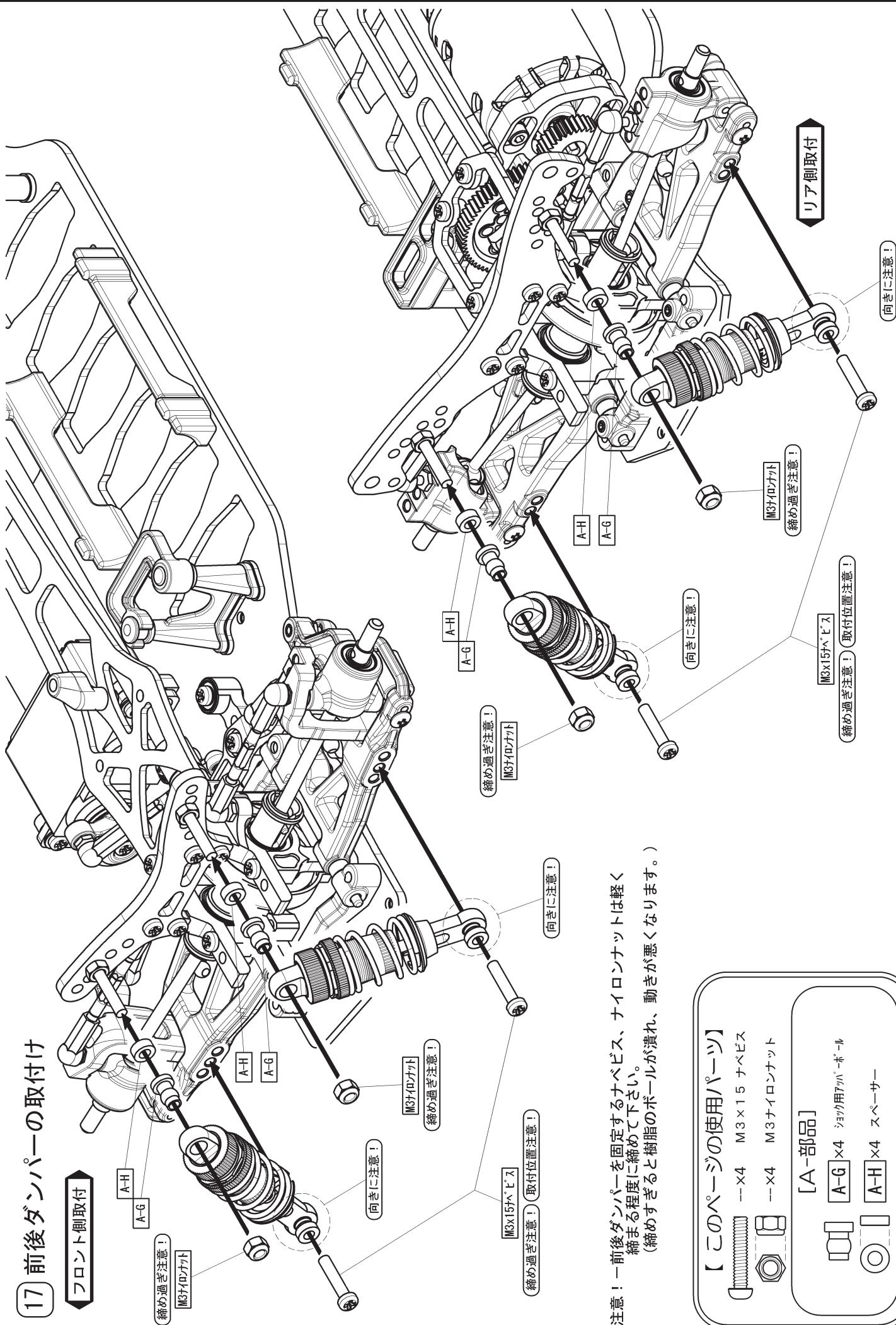
・シグに (シヨックパイプ) を入れ、押し上げながら (B-B) をはめ込む。



ダンパーの完成！

17 前後ダンパーの取付け

フロント側取付



注意！一前後ダンパーを固定するナベビス、ナイロンナットは軽く締まる程度に締めて下さい。
(締めすぎると樹脂のボールが潰れ、動きが悪くなります。)

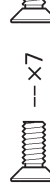
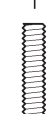
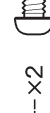
【このページの使用パーツ】

- ×4 M3 × 15 ナベビス
- ×4 M3 ナylonナット

【A-部品】

- A-G ×4 ショック用7mmボール
- A-H ×4 スペーサー

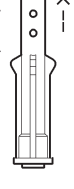
【 袋-13 の内容 】

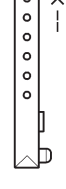
--x7  --x2  --x2  --x2 

M3x8mm 皿ビス M3x15mm 皿ビス M3x8mm ナベビス

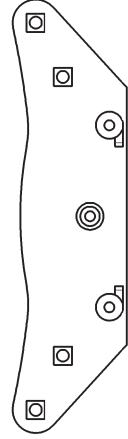
--x2  --x2  --x10 

ワッシャー フードピン

--x2  フロントボディポスト

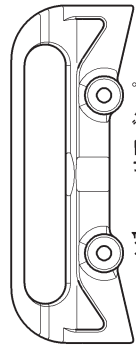
--x2  リアボディポスト

06 --x4 ボディマウントシーソー



--x1 フロントバンパー

--x1 フロントバンパーサポート

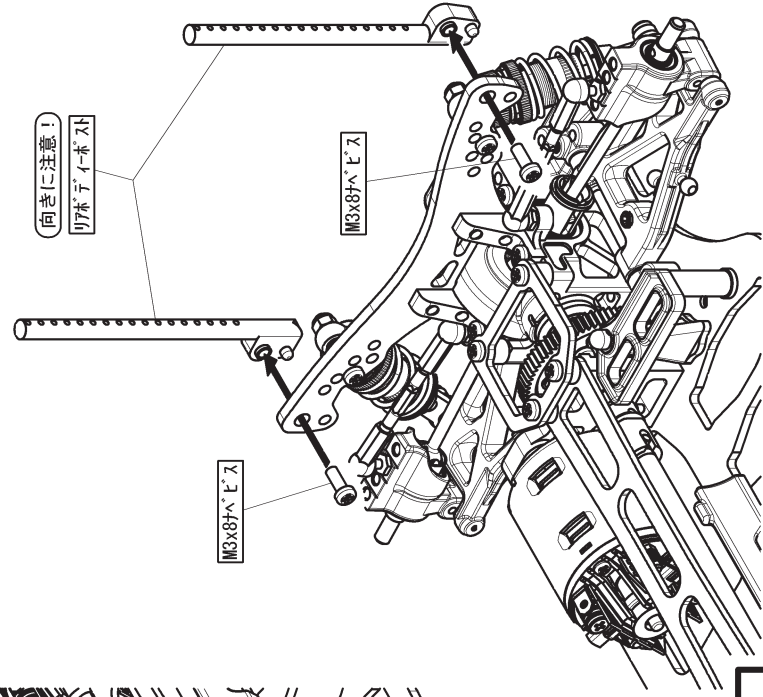
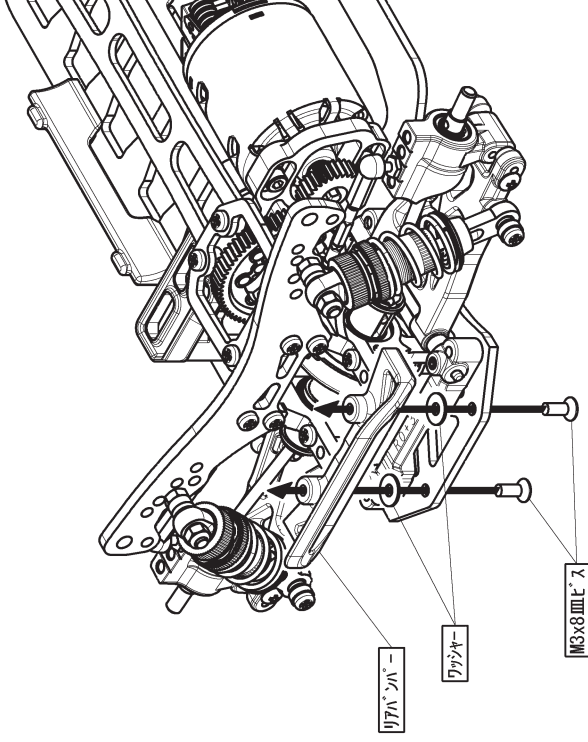
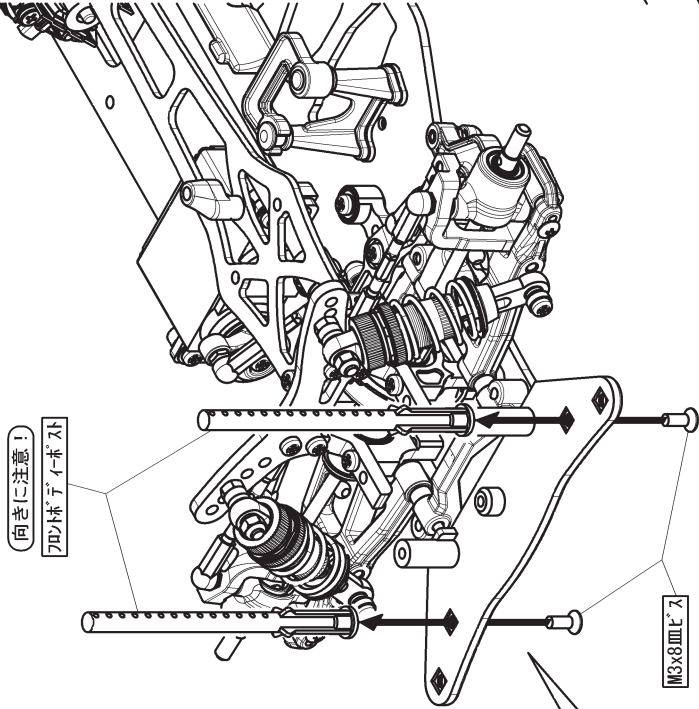
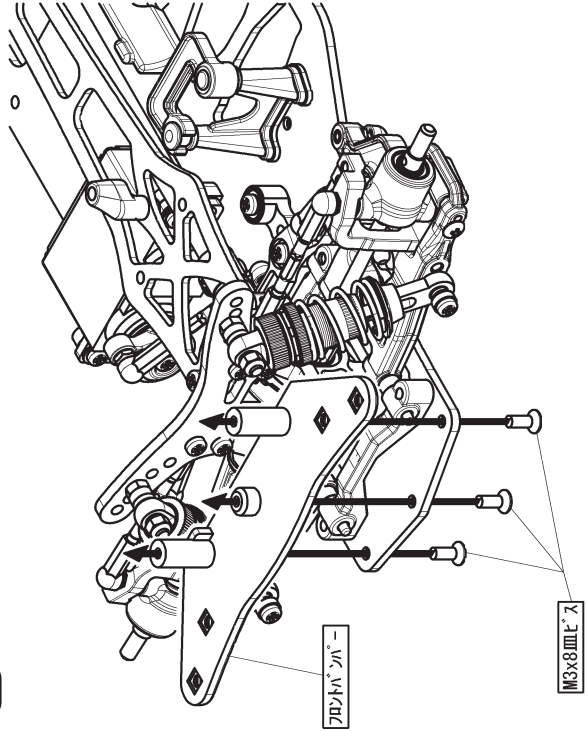


--x1 リアバンパー

その他、アンテナキャップ、両面テープ
スポンジテープ 各1ヶ

注意！
フロントボディポストの取付位置は、
使用するボディによって変わります。
ボディに付属する取扱説明書を必ず
お読み頂き取付位置を確認して下さい。

18 フロント&リアバンパー、ボディポストの取付け



19



ロントバン[®] - サホート

ウ、ク、カ、キ、ケ、コ

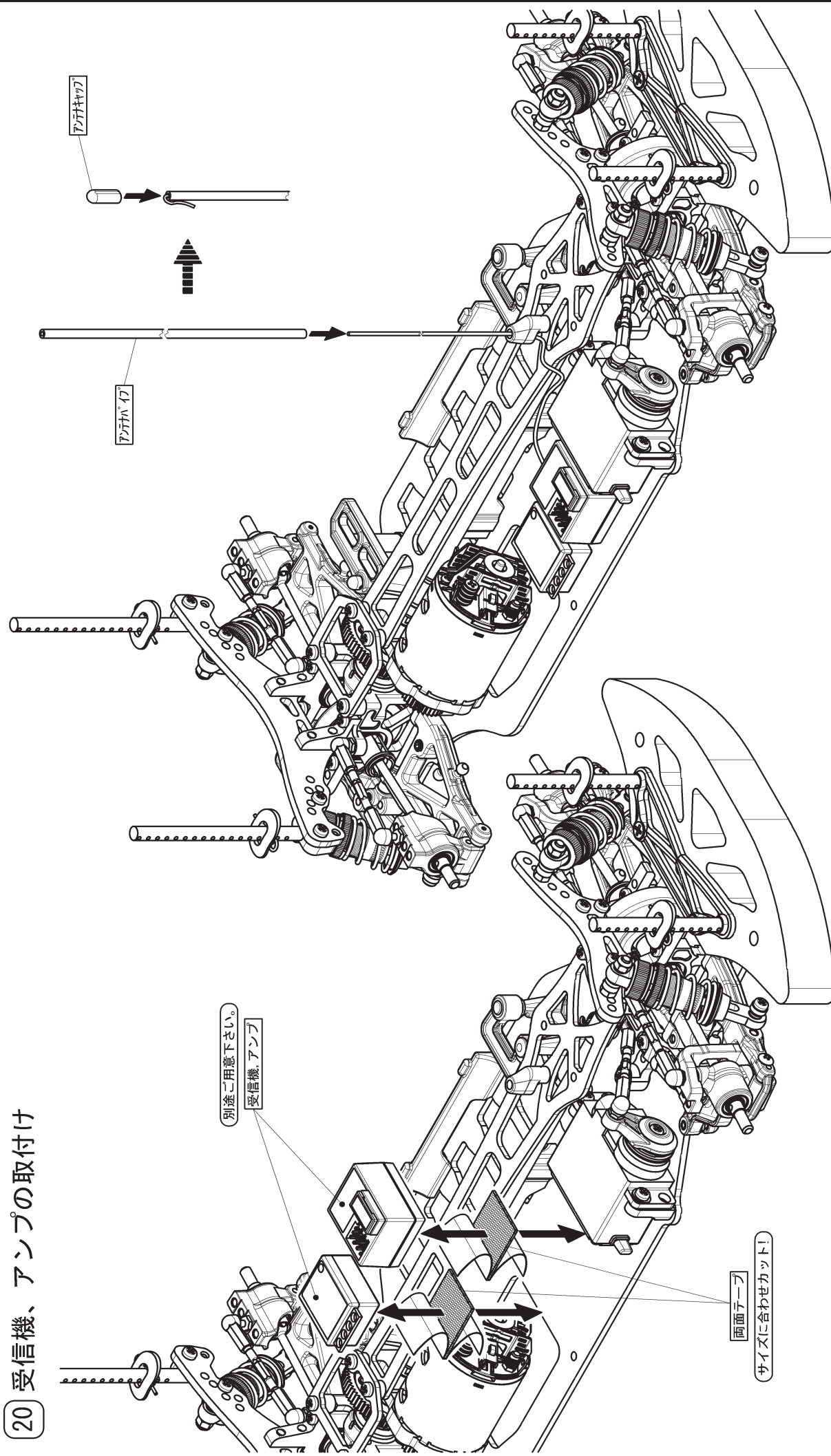
2017年12月14日

注意！①フロントボディーボーストを外側に
取り付けた場合は(フロントバンパー
サポート)(M3×15皿ビス)は使用しません。

(ボディーマウント) (ボディーマウントシーソー) の穴を合わせ(フードピン)を差し込みます。
(全てのボディーマウントに差し込みます。)

注意！②ボディーマウンテンシローは、使用するボディの高さに合わせ、調整して下さい。

20 受信機、アンプの取付け

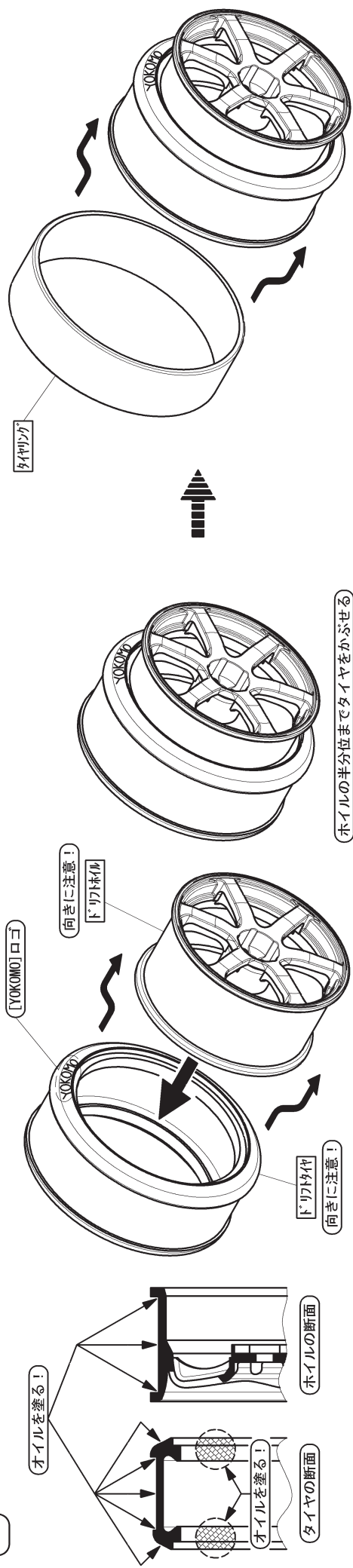


注意！①(受信機) (アンプ)の固定は付属の画面テープを使用し
シャーシにしつかりと固定して下さい。
(接着面をクリーナーなどで脱脂しておく、はがれ
にくくなります。)

アンテナ線をイラストのようにアンテナマウントから
アンテナパイプに通し、先端が2cm位出た所で
アンテナパイプをマウントへ深めに差込み、アンテナ
キャップを被せて下さい。

注意！②余ったアンテナ線はメインドライブシャフトなどの
稼動部分に触れない様に束ねて下さい。

21 タイヤの組立て(タイヤ、ホイールは別売です。スペアタイヤを作成する場合などに参照して下さい。)



ディッシュペーパーにCRC等の潤滑オイルを吹きつけ(ご家庭にあるサラダオオイル等を使用するのもOK)、左イラストのように、タイヤのトレッド面全周、タイヤ内側の面リブ全周、面サイドのクボミ全周、ホイールのリム幅面全周にタックリと塗りつけて下さい。ホイールスポーク部とタイヤ[YOKOMO]ロゴの向きを確認し、右イラストのようにホイールの半分位までタイヤをかぶせた状態にします。タイヤがはめ込みつらい時は、あらかじめお湯でタイヤをあたたためておくとうまく作業がしやすくなります。

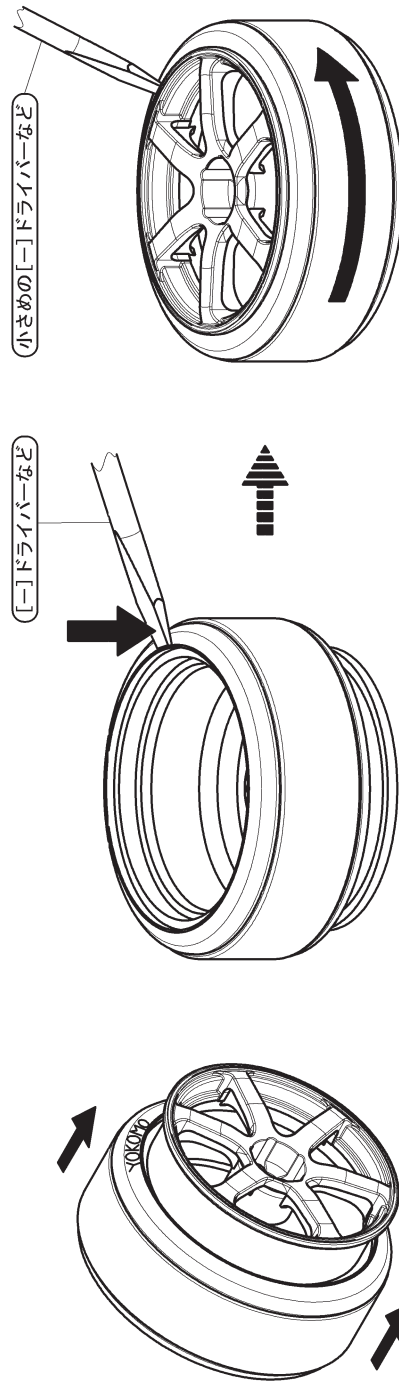
タイヤのミゾにタイヤリングをしっかりとはめ込みます。(はめ込みが不十分だと次工程のホイールにはめ込む作業がしづらくなります)

注意! ①(ドリフトタイヤ)には向きがあります。必ず中イラストのように[YOKOMO]ロゴがスポーク部と同じ向きに
くるようにはめ込んで下さい。

②ホイールをランナーから切りはなす際にはバリはカッター等で必ずきれいにとり除いて下さい。

③お湯を使用する時は、ヤケド等しないよう取扱いに十分ご注意下さい。

④無理な作業は思わぬケガ等をする場合がありますので、ゆとりを持ってゆっくりと組立を行って下さい。



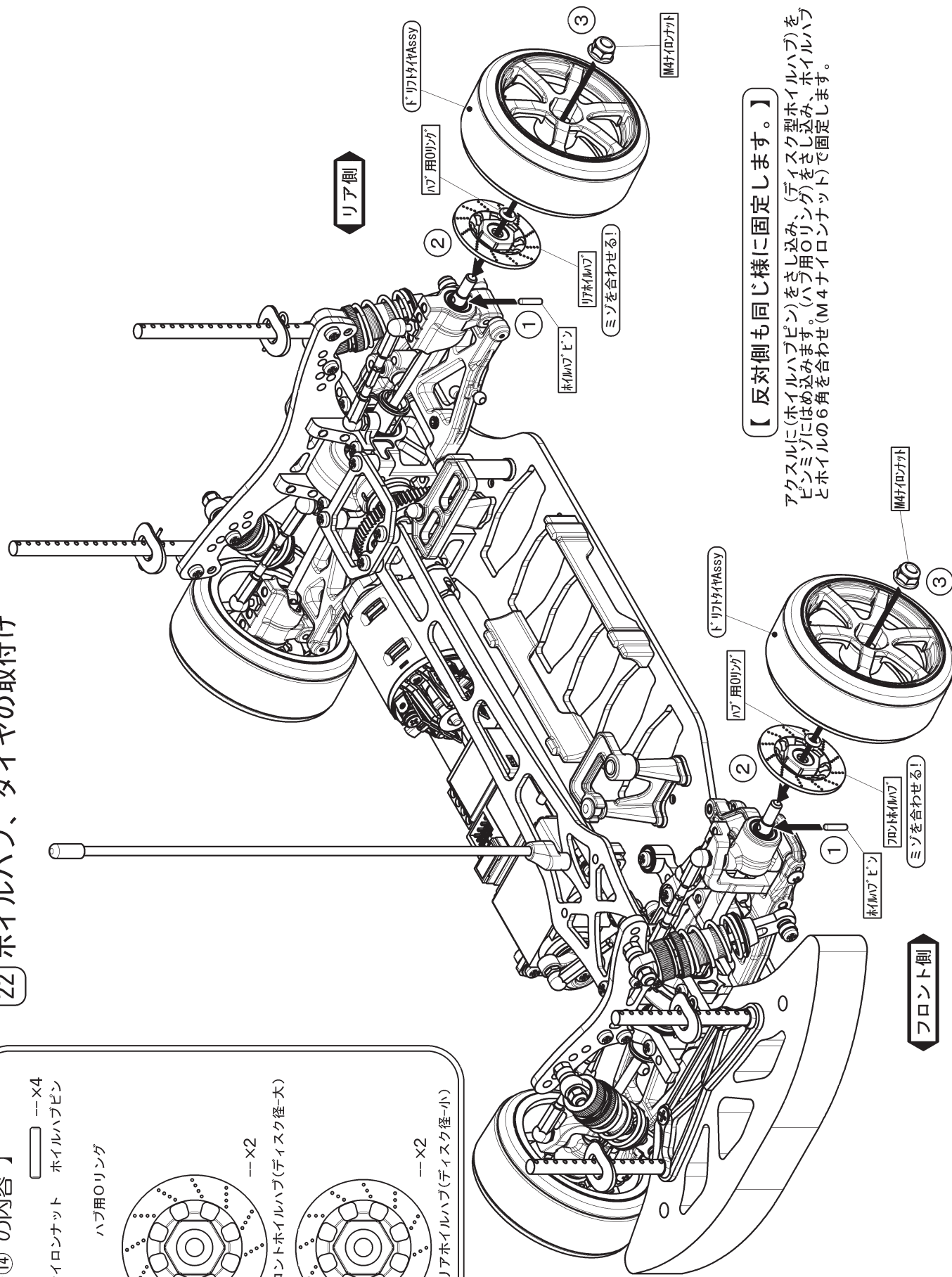
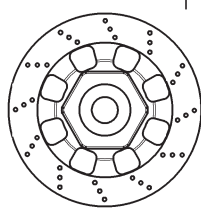
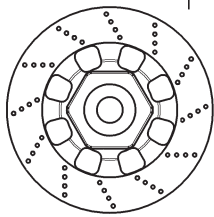
タイヤをいっぱいまでおし込み、[-]ドライバ等を利用してスキマや段差がなくなるとはめ込まれた状態は、タイヤとホイールがほつちになりません。スキマや段差がなくならない場合は、もみほぐしはめ込んで下さい。

ディスク面を裏側にし、タイヤがホイールにはまり込んでいるかを確認します。もし、スキマや段差が来ている場合にはイラストのように小さめの[-]ドライバ等でホイールにキズを付けないよう、タイヤを回転させながらタイヤのリブを引っ張り出し、ホイールのリムにかぶるようにはめさせます。

最後に全体をよくもみほぐし、リングとタイヤ、タイヤとホイールをなじませて下さい。

22 ホイルハブ、タイヤの取付け

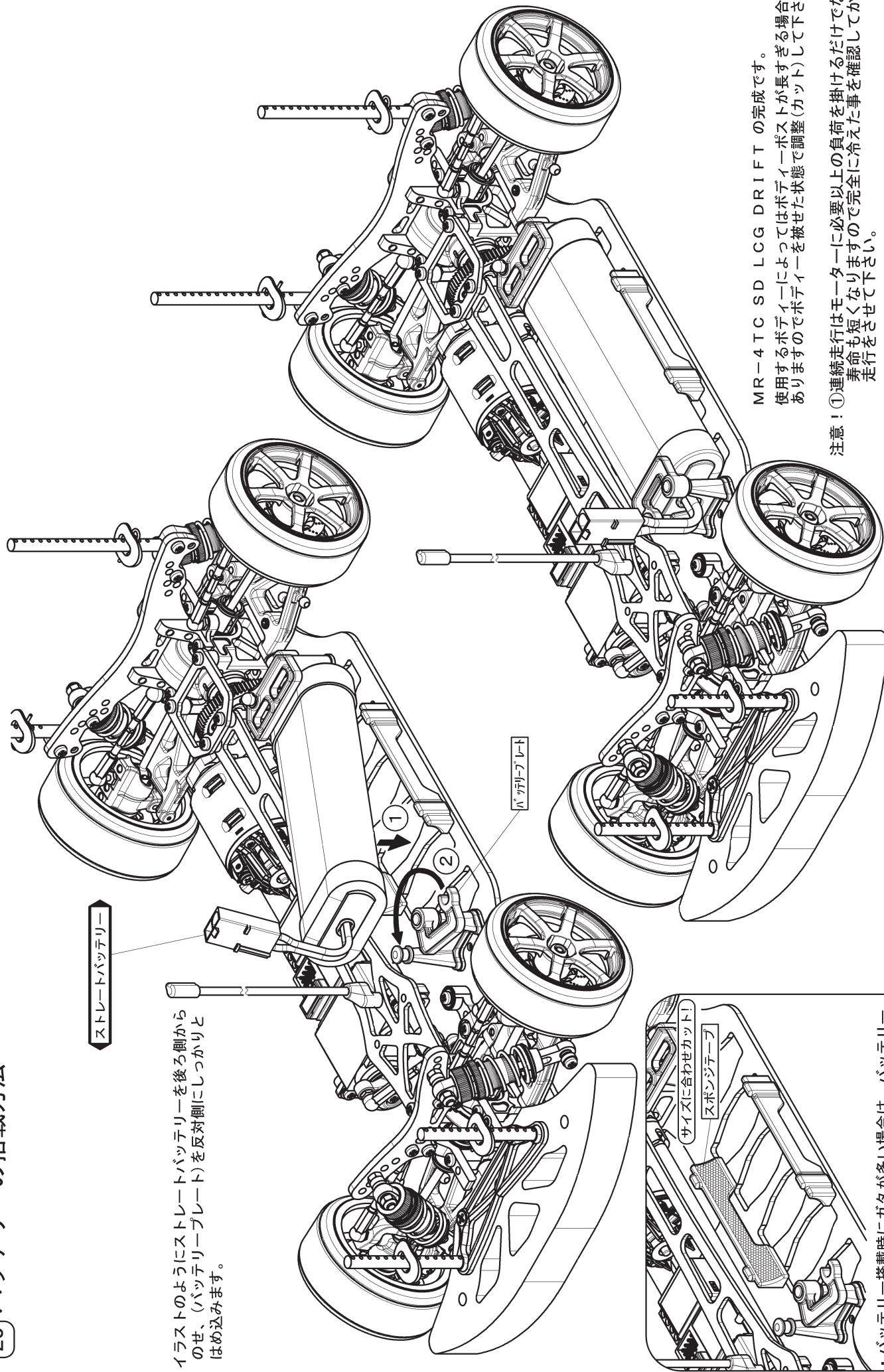
【 袋-14 の内容 】



【 反対側も同じ様に固定します。 】

アクスルに(ホイールハブピン)をさし込み、(ディスク型ホイールハブ)をピンミゾにはめ込みます。(ハブ用Oリング)をさし込み、ホイールハブとホイールの6角を合わせ(M4ナylonナット)で固定します。

23 バッテリーの搭載方法



イラストのようにストレートバッテリーを後ろ側から
のせ、(バッテリーブレード)を反対側にしっかりと
はめ込みます。

ストレートバッテリー

バッテリートレイ

サイズに合わせカット!

スポンジテープ

・バッテリー搭載時にガタが多い場合は、バッテリー
ガイドにスポンジテープを貼って調整して下さい。

MR-4TC SD LCG DRIFT の完成です。

使用するボディによってボディポストが長すぎる場合が
ありますのでボディを被せた状態で調整(カット)して下さい。

注意! ①連続走行はモーターに必要な以上の負荷を掛けるだけでなく
寿命も短くなりますので完全に冷えた事を確認してから
走行をさせて下さい。

②マシンは予想以上のスピードが出ます。必ず広い安全な
場所を見つけてから走行をお楽しみ下さい!

YOKOMO

DRIFT MASTER

SETTING SHEET

ドライバー

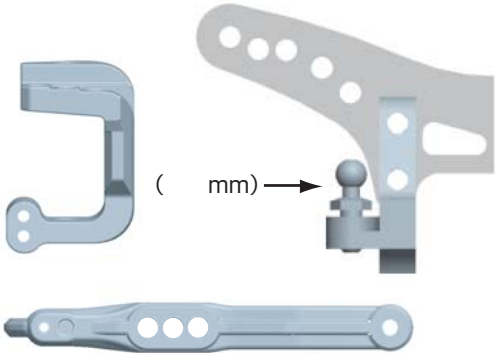
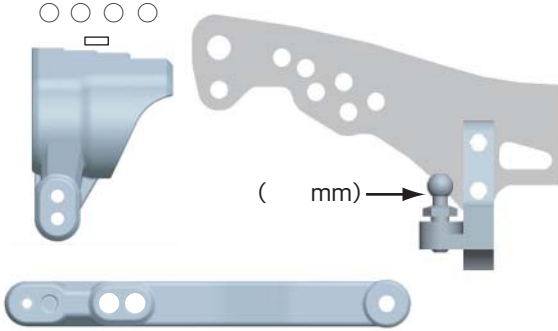
DATE / /

サーキット

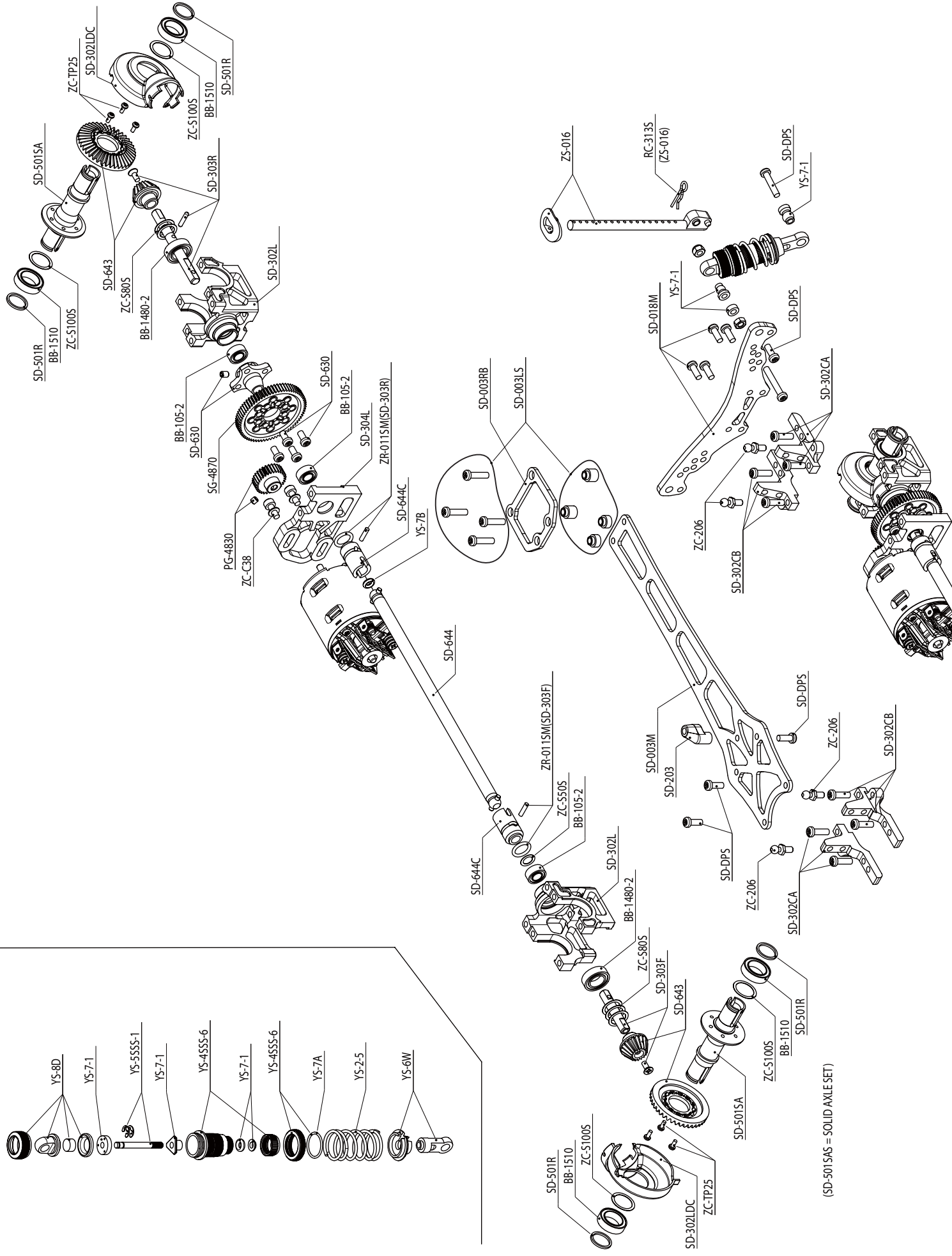
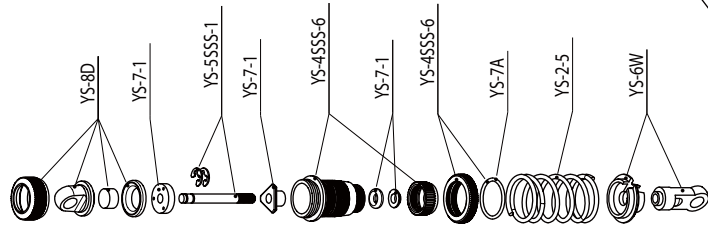
環境 ☐ インドア ☐ アウトドア路面 ☐ アスファルト ☐ コンクリート ☐ カーペットグリップ ☐ 高い ☐ 普通路面状況 ☐ フラット ☐ バンピー

	フロント	リア
駆動系	☐ ワンウェイ ☐ ボールデフ ☐ ソリッド	☐ ボールデフ ☐ ソリッド
スタビライザー	☐ 無し ☐ ロア ()	☐ 無し ☐ アッパー () ☐ ロア ()
ステアリングブロック		
ハブキャリア		
キャンバー / トー角	キャンバー角 () 度 / トー角 ()	キャンバー角 () 度 / トー角 ()
サスマウント スキッド角	度	度
ハイトスペーサー	前側後側共に () mm	前側後側共に () mm
ドループハイト		
ロアサスアーム位置	フロント () mm / リア () mm	フロント () mm / リア () mm

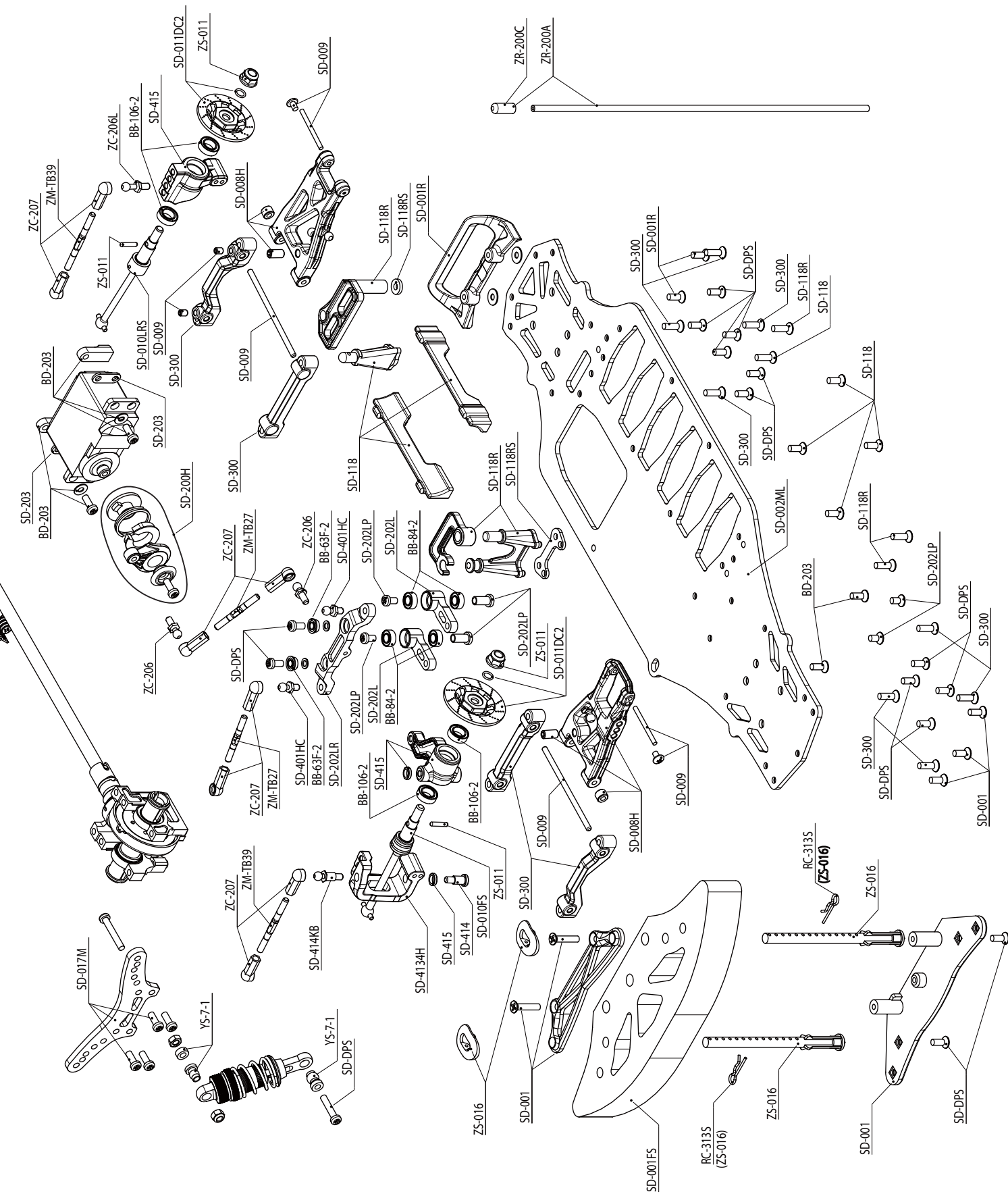
ショックダンパー	☐ ダイヤフラム () ☐ エアレーション	
ショックボディ	☐ SSS ☐ SS	☐ SSS ☐ SS
ショックエンド	☐ ロング ☐ ショート ☐ アソシ	☐ ロング ☐ ショート ☐ アソシ
全長	mm	mm
スプリング		
オイル		
ピストン		
バンプストップ	☐ リング () ケ	☐ リング () ケ

アイアーム位置 ショック位置		
車高	mm	mm

タイヤ	タイヤ () インナー ()	トラクション剤 () ホイール ()
メカ	モーター ()	バッテリー () ESC ()
ギヤ	スパーギヤ () ピッチ () T × = ギヤ比 (. : 1)	ピニオンギヤ () ピッチ () T
ボディ	ボディ ()	ウイング () ボディマウント位置 ☐ 内側 ☐ 外側
その他アドバイス		



(SD-501 SAS = SOLID AXLE SET)



MEMO

YOKOMO



世界のブランド YOKOMO

ヨコモは競技用R/Cカー（ラジオコントロールカー）の専門メーカーです。その製品は、全日本選手権、全米選手権、ヨーロッパ選手権、そしてR/Cカーレースの最高峰である世界選手権レースでも優勝。世界中のR/Cカーマニアに愛用されています。

株式会社 ヨコモ 〒120-0005 東京都足立区綾瀬 5-23-7 <http://www.yokomo.co.jp>
TEL 03-6613-7553 FAX 03-6613-7552 営業時間：9時～12時 13時～17時（休祭日を除く月～金）



YOKOMO USA INC. 17951 SKY PARK CIRCLE, BLD. 35 SUITE B, IRVINE, CA. 92614 U.S.A.
<http://www.yokomousa.com> TEL 949-252-8663 FAX 949-252-8657